

77-378

中
等
最新
地理
教科
書

文學士 荻野仲三郎
加藤庄三郎 共編

東京
大阪

集成堂藏版

外國
上

明治
27 3 21
丙午

例言

- 一、本書ハ文部省ノ中學校教授要目ニヨリ中等教育ノ諸學校ニ於ケル外國地理教科用ニ充テシガ爲ニ編纂セルモノナリ
- 一、記事ハ專ラ簡約ヲ旨トシテ叙述セリ故ニ之ガ増補敷衍ハ實際教授ノ任ニ當ル人ノ斟酌ニ任ス
- 一、挿畫ハ風景、港灣、市街或ハ平面圖ヲ以テシ尤精ヲ彫刻ニ盡シ而シテ其出處ハ極メテ精確ナルモノヲ採レリ

明治三十六年九月

編者識

中等最新地理教科書

外國之部上卷

目次

第一編 亞細亞洲

第一章	總論	一
第二章	韓國	一〇
第三章	清國	一九
第一節	支那本部	二五
第二節	滿洲	三六
第三節	蒙古	三八
第四節	新疆省	三九
第五節	西藏	四〇

第六節	青海	四〇
第四章	露領亞細亞	四二
第一節	西比利亞	四二
第二節	中央亞細亞	四四
第三節	高加索	五〇
第五章	亞細亞土耳其	五二
第六章	亞刺比亞	五四
第七章	イラン地方	五六
第一節	波斯	五六
第二節	阿富汗斯坦及びヘルナスタン	五七
第八章	印度附緬甸	五九
第九章	英領海峽殖民地	六五

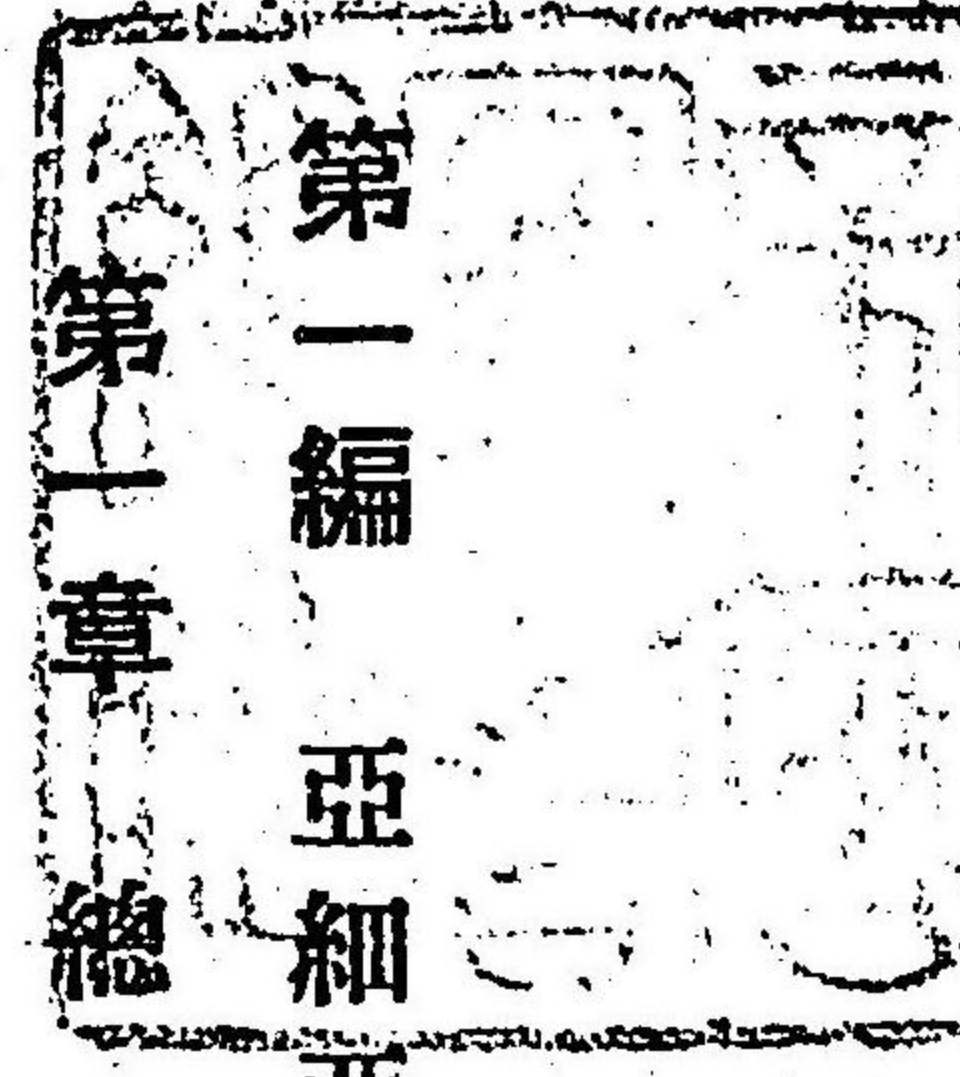
第十章	暹羅	六七
第十一章	佛領印度支那	七〇
第一節	東京	七〇
第二節	安南	七一
第三節	交趾支那	七一
第四節	柬埔寨	七二
第十二章	馬來群島	七三
第一節	スンダ列島	七四
第二節	フィリピン群島	七五
第二編	大洋洲	
第一章	總論	七六
第二章	オーストララシア	七六

第一節	濠太利亞	六
第二節	タスマニア	八四
第三節	新西蘭	八四
第三章	メラネシア	八六
第四章	ミクロネシア	八八
第五章	ポリネシア	九二

中等最新地理教科書

外國之部上卷

文學士 荻野仲三郎 共編
加藤庄三郎



第一編 亞細亞洲
第一章 總論

位置 亞細亞洲 は東半球の北東部にありて、南東北の三面は印度洋・太平洋・北氷洋に包まれ、西の一部のみウラル山脈・ウラル河・裏海等を以て歐羅巴洲に接し、紅海及びスエズ^{Suez}の地峽を以て、アフリ加洲に連る。面積凡そ一千七百萬方哩ありて、六大洲中最も大きく、地球上全陸地の凡そ三分一を占む。北氷洋は、其名の如く常に結氷し、夏季に至れば氷山流れ出

面積

境界

沿岸

でて船を通ずべからず海岸も低くして出入少く島嶼は新西比利亞群島の外著名なるものなし。これに反して東南二方は凸凹多く半島島嶼内海も亦少からず其中最も著名なるものを擧ぐれば左の如し。

東部

甘察加半島
Kamtchatka

オホーツク海
Okhotsk

サハリン島(樺太島)
Sakhalin

朝鮮半島

日本海

日本群島

遼東半島

黄海及び東海

瓊州島(海南島)

山東半島

南支那海

フィリピン群島
Philippine

南部

印度支那半島

ベンガル湾
Bengal

ボルネオ島
Borneo

印度半島

亞刺比亞海

シバ及びスマトラ島
Java Sumatra

地勢

亞刺比亞半島

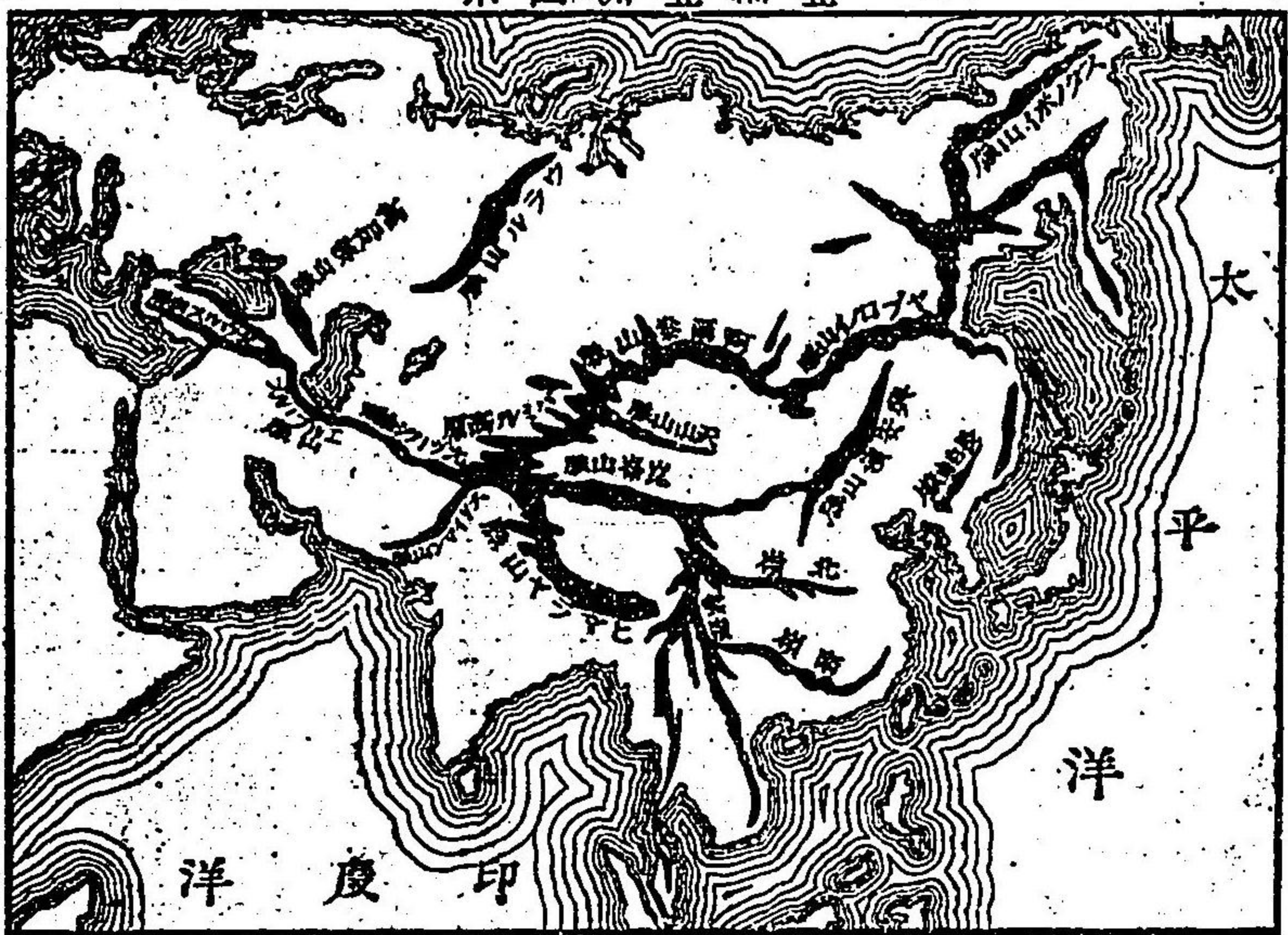
紅海

錫蘭島
Ceylon

これに加ふるに東南二方面の沿岸は交通の便あると産物の饒なるとによりて住民甚だ多く開化亦從ひて進歩せり。本洲の中央より少しく西南に偏して、パミル高原あり、地理學者これを地球の屋根といふ、大山脈はこれより四方に派出す、東に走れるものはヒマラヤ山脈にして、最高峰たるガウリサンカルは、海拔二萬九千餘尺ありて、世界第一の高山とす、其他我が富士山の二倍以上に達せる高峰少からず、其北に西藏高原あり、南に印度の平原あり。パミル高原より西に向へるものは、ヒンヅークシ山脈、エルブールズ山脈にして、其以南は概ね沙漠の高原なり、其東方にスレイマン山脈南出せり。

山脈

系山洲亞細亞



パミール高原より北東に走るものは、天山山脈・阿爾泰山脈・ヤブロノイ山脈・スタノボイ山脈となり、蜿蜒として五千哩に亘る。ヤブロノイ山脈の南方にゴビの沙漠あり。

地勢此の如くなるが故に、河流は概ね水源を中央の高地に發して四方に流下す。

北氷洋に注ゆるオプ・イニ

ニセイ・レナの三大河は、共に二千哩以上の流れを有すれども、河口は近寒無人の境にして、舟運の便少し。

東南太平洋に朝するものには、黒龍江・黄河・揚子江・湄公河等あり、黒龍江は西比利亞東部の運輸を助け、揚子江は清國の中部を流れ、灌溉・交通の利を與ふること頗る大なり、湄公河は、印度支那半島の東部を潤す。

南方、印度洋に注ゆるイラワヂ・恒河・印度及びエウフラト・ナグサス等の諸河は、何れも灌溉の便あり、特に恒河は印度の大平原を潤す大河なり。

西流する重なる河をシル河・アム河及び伊犁河等とす。

本洲は、南は熱帯より、北は寒帯に延び、大部分は温帯を占むれども、廣大なる山脈・高原處處に亘れると、海岸を距る遠近

天産

とによりて、各地の氣候に大なる差あり、其東南部は暑氣強くして、濕氣亦頗る多く、地球上雨量最多の地なり、西南部は炎熱甚しく、空氣常に乾燥せり、北部は寒威極めて強く、世界最寒の地なり、中部の地は稍、温暖なるも、寒暑の差著しく、空氣概して乾燥なり。

土地氣候によりて、各種の天産物あり、南部熱帯の地には甘蔗・珈琲・米・棉花・藍・椰子樹・竹等、有用植物の生長著しく、動物には象・犀・水牛・駱駝・虎・鱈魚・毒蛇の類あり、鑛物には金剛石・錫・鉛等最も名あり、中部の暖地には、穀物・菓物・桑・麻等を産し、又松柏・樅等の木材を出す、而して動物には、我國に産する如き温帶性諸動物を普通とす、鑛物には、ウラル山脈の金・白金・崑崙山脈・阿爾泰山脈の金・清國及び我國の金・銀・石炭等を著名な

住民

りとす、北部寒帯の地には、苔の外植物に乏しく、動物には馴鹿・羆・熊等あり。

亞細亞洲は凡ての人種を包括し、黑人種及び馬來人種は、南部の高地及び群島に多く、高加索人種は、西方の大部及び印度の平原に多く、蒙古人種は、ヒマラヤ山脈・ヒンヅークシ山脈の北部全體及び東部に多し、總人口凡そ八億三千餘萬ありて、世界總人口の五割五分を占む、然れども氣候・地味等の異同によりて粗密あり、即ち北氷洋岸なる西比利亞の凍土帶・ゴビ沙漠・パミル高原等は、殆ど無人の境なるに反して、恒河・揚子江・黄河の流域地及び本邦の中央部は、人口最も稠密なり。

區劃

本洲は、世界陸地の三分之一を有する大洲なれども、概ね歐米

諸國の屬地にあらざれば、其保護を受くるものにして、眞の獨立國と稱するは、僅に我國の外二三に過ぎず。

國名

- 日本
- 韓國
- 清國
- 西比利亞(露領)
- 中央亞細亞(露領)
- 高加索(露領)
- 亞細亞土耳其(土領)
- 亞刺比亞
- 波斯

阿富汗斯坦

ベルナスタン(英ノ保護國)
Baluchistan

印度(英領)

緬甸(英領)

海峽殖民地(英領)

暹羅

東蒲塞佛ノ保護國

安南(佛ノ保護國)
(南北兩端ハ佛領)

馬來群島(蘭・米・英ニ屬ス)

第二章 韓 國

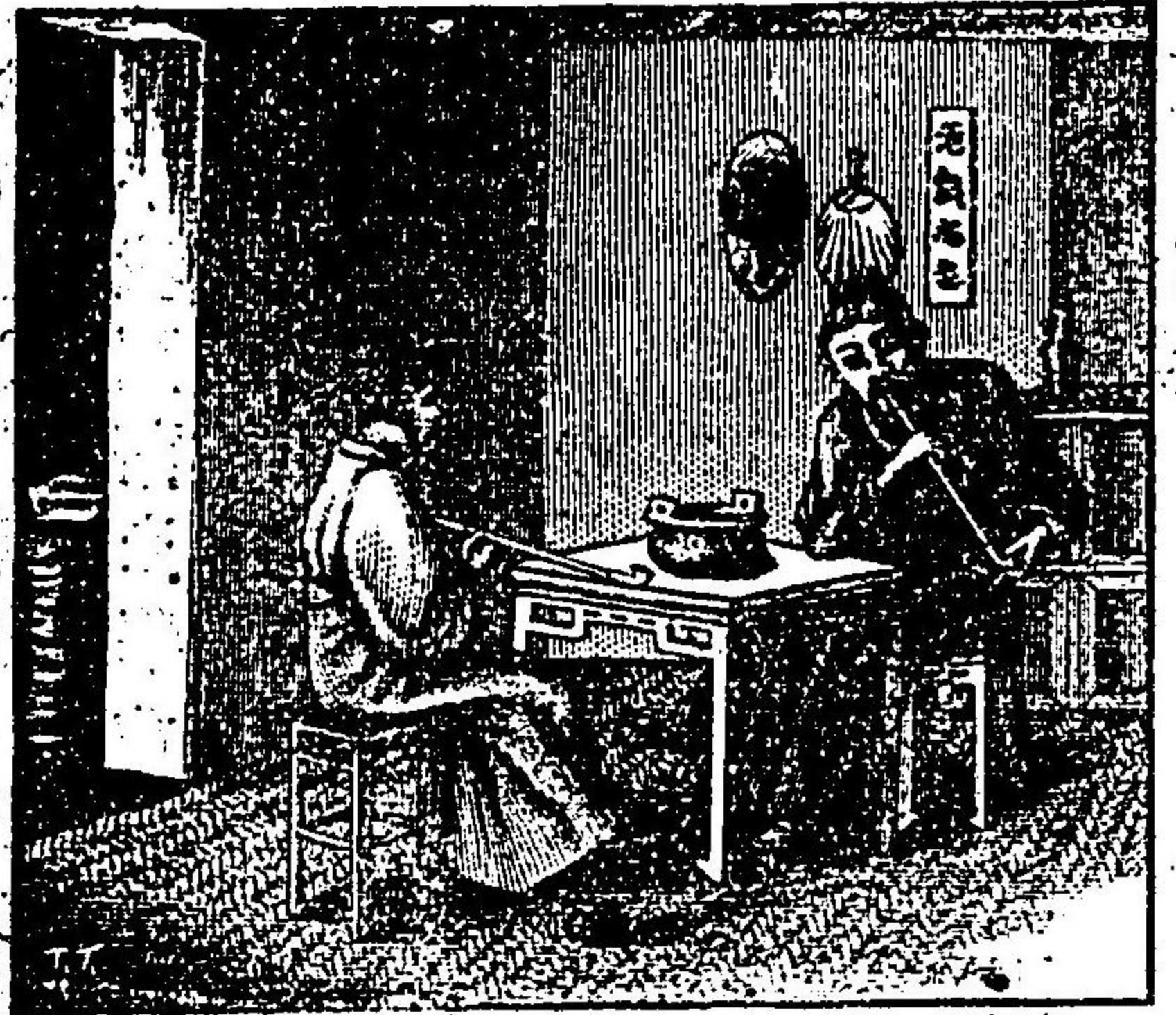
位置 韓國は朝鮮海峽を挟みて、我が九州と相對する半島國にして、北は鴨綠江・圖們江の二河及び長白山脈を以て滿洲及び西比利亞に接し、西は黃海を挟みて清國に對し、東は一面日本海に臨む面積本邦の半はよりも稍小なり。

山脈 白頭山脈は北境の長白山脈より起り、中央より東に偏し、國內を南北に貫き、南西端に達して地勢を東西の二部に分つ。此山脈中、北方の狼林山、中部の馬息嶺、鐵嶺及び南部の秋風嶺最も著はれ、北部の諸山はすべて森林・金坑に富めども、南方は概して赭山なり。

河流 此國は河流に乏しからざれども、多くは天然のままに放任し、敢て人力を施さざれば、交通の便あるものは至て少し。

人口

人 韓



圖們江は長白山脈に發源し、日本海に入る。此河谷は滿洲及び西比利亞との境をなすが故に、國防上頗る緊要なるものなり。洛東江は南部の大河にして、慶尙道の平原を濕し、朝鮮海峽に入り、西部の錦江・漢江・大同江・鴨綠江の四大河と共に稍舟運の便あり。

人口 凡そ五百三十萬ありて、西部に最も多く住し、南部これに次ぐ。族制は貴族・常人の別ありて、貴族獨り政權を掌握す。性質溫和にして、進取の氣象に乏しく、常人は諺文

文學

政治

條約國

交通

商業

を用ふれども、上流社會及び官府の法令は、漢文を用ふ、然れども近年我國語を學び、又洋學を修むるものあるに至れり。政體は世襲の君主專制なり、皇帝を輔佐する内閣ありて、政務を司り、其下に内部・外部・度支部・軍部・學部・法部・農工商部の七部あり、各部の長官を大臣と稱し、議政これを統ふ、中樞院は皇帝の諮詢に應へ、警務使ありて警察の事務を掌る、又地方官には觀察使あり。

通商條約を結べる邦國は、我國を始とし、英・米・露・佛・獨逸・伊・白・清の十國とす。

國內の道路は、一般に不完全なるが故に、近時鐵道架設の企あり、されど京仁鐵道既設及び京釜鐵道工事の外は未だ全く着手せられざれば、内國商業は振はざれども、其ノ處に

開港場 仁釜元木鎮群馬城開平京
川浦津浦浦浦浦津浦川
城樓 津浦浦浦浦津浦川

京畿道

京城

外國貿易場を開きて米・大豆・牛皮・砂金・人參等を輸出し、綿布・金屬器・毛布等を輸入す、其中我國人との取引は、凡そ十分の九を占むといふ。

區劃は、地勢によりて、脊梁山脈以西の平安・黃海・京畿・忠清・全羅及び東部の慶尙・江原・咸鏡の八道に分ち、行政上京畿・黃海・江原の外は、南北の二道に分ちて十三道とし、更に州・府・郡・縣に細分せり。

京畿道 は、西部の中央にあり、本道以北を古は高麗といひ、漢城は又京城ともいひ、此國の首府にして、漢江の右岸にあり、人口凡そ二十萬を有すれども、市街不潔にして、家屋は矮陋なり、現朝の太祖康獻王以來、歴代の國都にして、四方に高壁を繞らせり、王宮は西北部を占め、諸官衙は其周圍にあ

仁川

り、又日本公使館及び領事館の設けあり。

仁川港は、京城を距ること西二十七哩、京仁鐵道を以て連絡す、韓國第一の要港にして、盛に米、牛皮等を輸出す、此地は明治十六年、我國のために開港せしものなり、開城は京城の西北にあり、高麗王の舊都にして古跡少からず。

黃海道

黃海道は、京畿道の北に連り、田圃拓け、穀類及び棉花の産あり、海州は南部の山麓にありて棉花、大豆の取引稍盛なり。



京城

平安道

平安道は、國の西北端にあり、鴨綠江は北境を流れて、水源地方の木材を流下し、大同江は南方の平野を濕す、此二河の上流地方は、砂金と木材とに富めり、平壤は南部の平野にあり、此國の開祖たる箕子の初めて都したる處にして、現今は人口三萬餘を有し、商業の繁盛なること京城に次ぐ、城廓は、後に牡丹臺を負ひ、前に大同江を控へ、頗る要害の地なれば、日清戦役には、清の大軍全力を盡して守りしを、我軍のため、に陥れられしを以て、其名高し、鎮南浦は、大同江口に位する開港場にして、前途有望の地なり、義州は鴨綠江の沿岸にありて、清國との貿易盛なり。

平壤

鎮南浦

忠清道

忠清道は、京畿道の南にあり、全羅道と共に古は百濟と稱しき、錦江は道内を貫流し、江畔の地を肥沃ならしむ、公州は

錦江の上流にありて、舊百濟の國都なりき、牙山は北部海岸にあり、日清戰役の始め清軍の駐屯せし地にして、成歡は、我陸軍の清軍を掃蕩したる地なり、西方の海中に豊島あり、我海軍の始めて清艦と開戦して、全捷を得たるは其近海なり。全羅道は國の南西端にあり、肥沃の平野ありて農産多く、忠清道と共に韓國の寶庫と稱せらる、李太祖の墳墓地たる全州は北部にあり、木浦は南西岸に位して開港場の一なり、巨文群島は、小島なれども緊要の位置を占む、其の南西に濟州島あり。

慶尙道
釜山浦

慶尙道はもとの新羅の地なり、洛東江の沿岸は土地肥え農産に富めり、釜山浦は、絶影島を前に控へ、灣内安全なるが故に大船を泊するに便なり、我對馬を距ること僅に三十四

江原道
咸鏡道
元山津

裡なれば、古來我國との貿易盛にして、現時本邦人の在留するもの六千に餘れり、輸出品の重なるものは、大豆・米・牛皮等なり、此地より、洛東江に沿ひ京城に赴く京釜鐵道は、現今工事中なり、西方の馬山浦も開港場の一なり、蔚山は、文祿の役を以て名高く、慶州は新羅の舊都なり。江原道は、慶尙道の北にありて日本海に瀕し、佳景の地多し、春川は漢江に臨み、京城に薪を運搬する市場なり、北境の鐵嶺は、京城より元山津に通ずる關門にして、其南方に禪宗の大本山たる金剛山あり。咸鏡道は、西比利亞及び滿洲に接す、道内には山岳起伏し、森林に富み、金坑も少からず、明太魚は本道沿岸の特産とす。徳源灣内にある元山津は、明治十三年、我國のため開きし

港にして、砂金・穀物等を輸出す、これより西方に通ずる國道に馬息嶺あり、頗る險阻にして、日清戦役の際に、元山支隊の通過せし所なり、城津も亦開港場の一なり。

第三章 清 國

位置

境界

地勢

山脈

清國 は、亞細亞大陸の東部を占め、北は露領なる西比利亞に接し、東は韓國及び黃海・東海・南支那海に臨み、南は佛領東京及び英領印度に連り、西は露領中央亞細亞に隣りず、面積は凡そ四百二十萬方哩ありて、我國に二十六倍す。西南隅のバミル高原より東北に走れる大山脈數條あり、東に走りて南境をなせるはヒマラヤにして、北に赴けるものは到る處其名を異にす、葱嶺・天山山脈・阿爾泰山脈これなり、此の二大山脈の間は崑崙山脈あり、東に進みて北東南の三方に分れ、北なるものを陰山・興安嶺の諸山脈とし、南に走れるものを雲嶺とす、其中間に北嶺・南嶺の二山脈あり、其南嶺は、東海を越えて我國に入り、日本崑崙山系となる。

人口

總人口凡そ四億三千餘萬ありて、歐羅巴洲の總人員より多し。漢種は始めて此國を開きたる民族にして、其數頗る多く、主として支那本部に住す。通古斯種は滿洲に最も多く、現朝の祖宗はこれより出で、此の他、支那本部の南西部には苗種、西藏には西藏種、新疆省には土耳其種居住し、蒙古地方には蒙古種最も多し。

性質

清國人は勤勉にして忍耐力に富み、商業に巧にして、苟も利ある處は如何なる艱難もこれを避けざるの風あり、年年海外に出稼するもの多く、世界中の開港場にして殆ど清人を見ざる處なし、然れども舊慣を守りて改進の念乏しく、人種雜駁なるが故に愛國心缺け、阿片を喫するが故に身體健康ならざる弊あり、古來學問を重んずるも、有用の學術は却て

教育

宗教

政治



支那人風俗

古及び西藏には喇嘛教専ら行はる。

政治 は君主專制にして、内閣及び其下に吏部・戸部・禮部・兵部・刑部・工部の六衙門ありて、行政事務を分掌し、別に軍機所ありて、軍國の事を處理し、又内外の機務を參決す、其他外部ありて、外國に關する事務を掌り、海軍衙門ありて、海軍を統へ、都察院ありて、諸官衙の職務を糾察し、理藩院ありて、蒙古

これを顧みざるが如し、されど近時は北京・天津其他各地に科學・兵學等を授くる學校を見るに至れり。
宗教 は種種あれども儒・道・佛の三教最も行はれ、蒙

青海・西藏の政令を掌る。

地方には、總督を置きて二省若くは三省を兼轄し、其管内に於ける文武の大權を統へ、其下に巡撫・提督あり、又布政使・按察使等ありて、地方の政務に當り、府に知府あり、州に知州・縣に知縣ありて、各管内を治む。

陸軍 は、八旗兵・綠旗兵の二種より成り、滿洲八旗・蒙古八旗・漢八旗に分てり、海軍は北洋水師・南洋水師・廣東水師等ありしが、北洋水師は日清戰役に我が爲に全滅せられ、其後未だ調はず。

支那本部の地は農産甚だ豊なり、中にも中部の揚子江流域は、土地廣く、温度・雨量共に適順なるが故に、米・茶・生絲・棉花・砂糖等を産し、年年外國に輸出すること頗る多し、南部の砂糖

兵制

商物

商業

棉花・北部の麥類も其産額亦少からず、其他滿洲よりは豆類を産し、新疆省の南西部よりは少量の穀物を出す。鑛物には鐵及び石炭あり、工産物の主要なるものは、揚子江流域地方の絹布・陶器、南部の絹帛、山東省の繭綢等とす。

支那本部にては、豚・家禽・驟馬・驢馬を飼ひ、蒙古・西藏にては綿羊・山羊を養ふ。

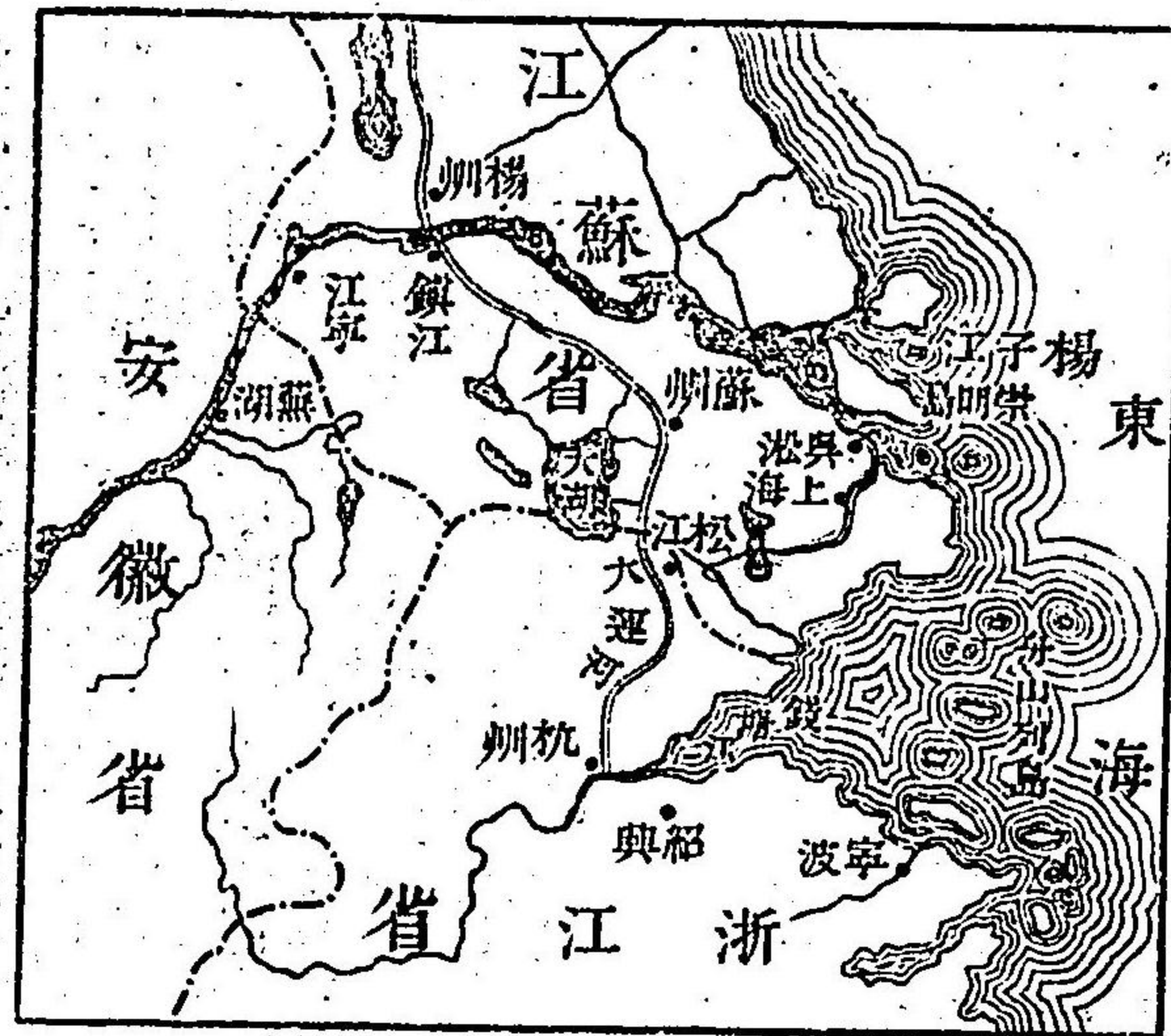
外國貿易は、清國交通の中心たる上海及び漢口・廣東・天津を主とし、三十八處に貿易場あり、輸出品の重なるものは生絲・茶・砂糖・紙・織物・陶器等にして、主要なる輸入品は金巾・阿片・金屬・石油・水産物・毛布等なり、而して我國へは棉花・油・糖・砂糖・大豆等を輸出し、我國よりは石炭・水産物・銅・マツナ等を輸入す。清國の交通は甚だ不完全なり、東方の沿海及び支那本部の

貿易場
牛莊 秦皇島
天津 芝罘
寶買城

上海 蘇州 無錫 鎮江 揚州 蕪湖 漢口 沙市 重慶

杭州 溫州 寧波 福州 廈門 汕頭 江門 三水 瓊州 北海 龍州 蒙州 亞東

揚子江珠江等は交通自在にして汽船の往來頻繁なれども内地の大部分は山脈高原等に遮られて道路險惡なり。近來鐵道敷設の計畫ありて、上海・吳淞鐵道、京漢鐵道（北京・正定間及び漢口・漢水間落成）蘆津鐵道、開平鐵道、東清鐵道は既に成功せり、其他設計中のもの少からず。電信は稍發達し、國內の大都會を連絡せるのみならず、東は韓國に連り、南は印度に通じ、北は西比利亞線に連絡せり。



楊子江口附近傍

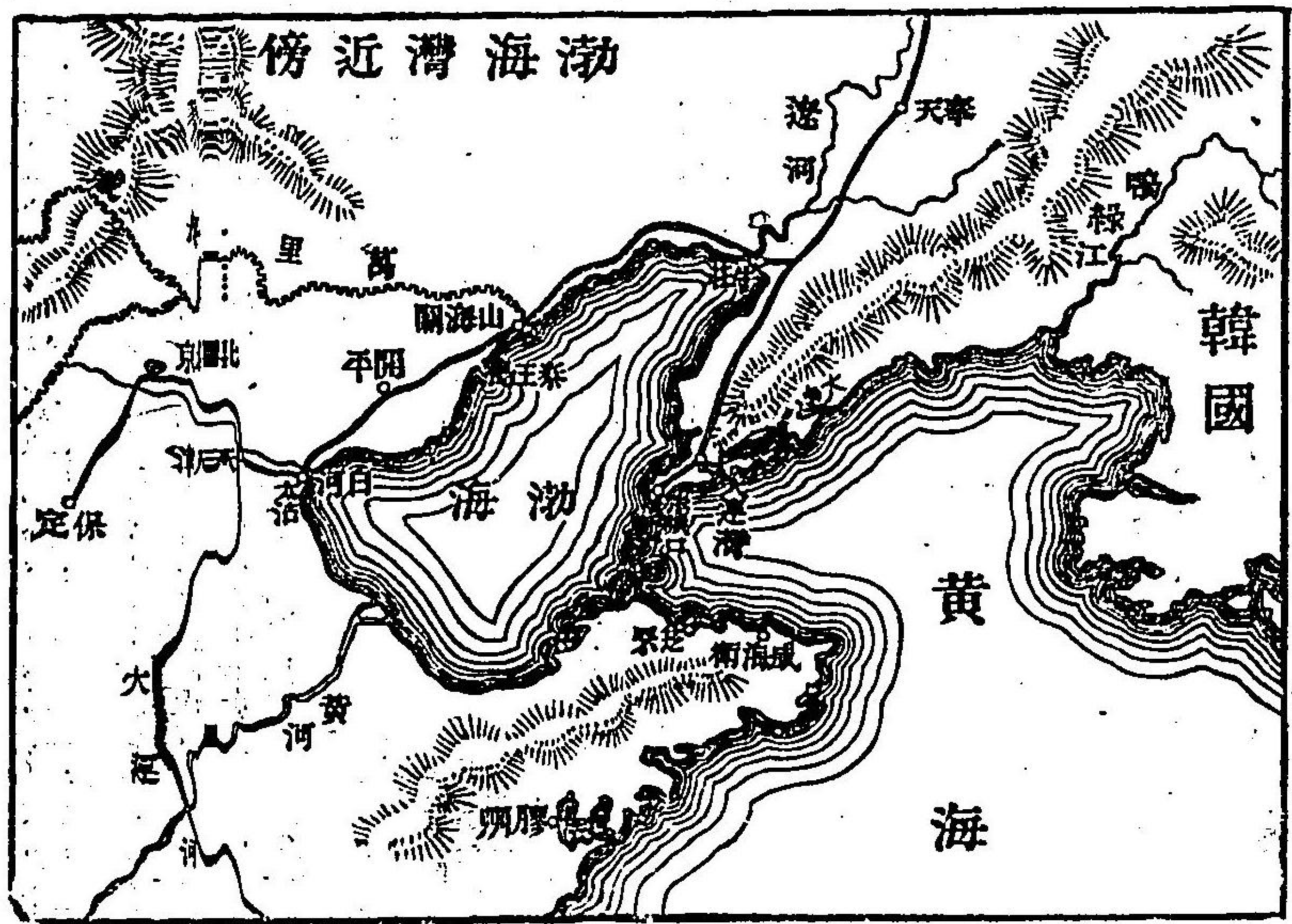
區劃

地勢によりて國內を左の六部に分れる。

- 一、支那本部。雲嶺・陰山二山脈の東にあり。
- 二、滿洲。興安嶺山脈の東にあり。
- 三、蒙古。滿洲の西にあり。
- 四、新疆省。蒙古の西南にあり。
- 五、西藏。ヒマラヤ山脈の北にあり。
- 六、青海。西藏の北にあり。

第一節 支那本部

北嶺・南嶺の二山脈東西に亘り、地勢自ら三部に分れ、黄河・揚子江及び珠江の三大灌域をなす。黄河は崑崙山脈の北側より出でて、中原の平地を濕し、渤海に入る。此河は常に黄泥を流し、河床を埋むるが故に運輸の便少く、又年年洪水溢れ、其



害甚だ多し。楊子江は崑崙山脈の南側に發源し、世界屈指の沃地をつくり、漢江及び洞庭湖、鄱陽湖等の水を受けて東海に入る。此河は清國交通運輸の動脈にして、船舶の上下織るが如く、我が大阪商船會社の定期船は、河口より上流迄一千里の間を航行す。流域地方は人口繁く、開港場のみにても既

支那本部ノ區劃

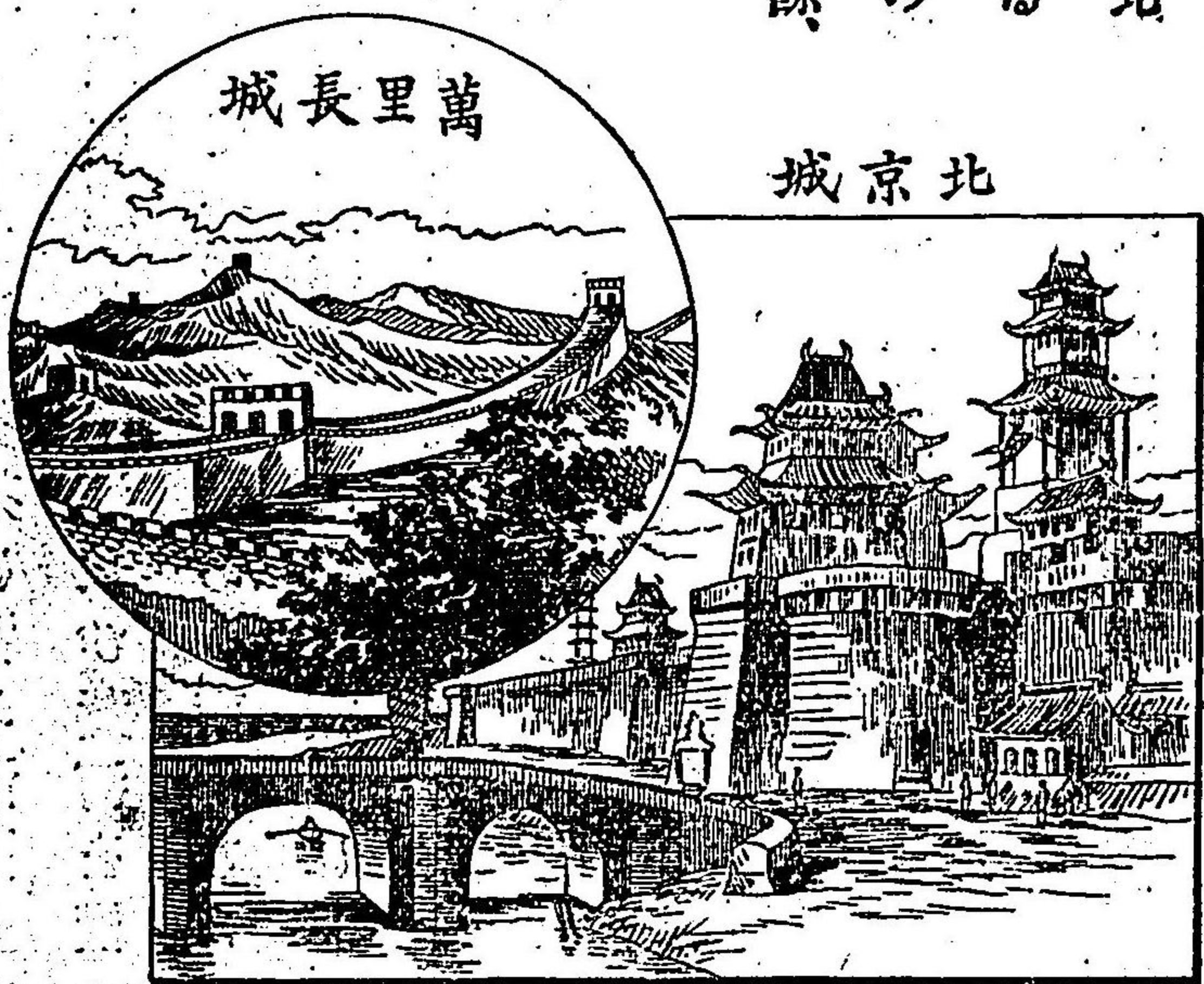
に九ヶ處あり、農産物又甚だ多く、特に米麥茶に富み、清國寶庫の稱あり。大運河は錢塘灣頭に起り、楊子江及び黄河を横ざりて、白河に通ず。其長さ總べて一千五百裡あり。南部なる珠江も亦東流して、廣東灣に注ぐ。南部第一の交通機關にして、沿岸には開港場の數少からず。此流域地方を越南と稱す。區劃は、既に地勢により三部に分ちたるを、更に十八省に區分せり。其名稱左の如し。

- 北部六省。直隸。山東。山西。河南。陝西。甘肅。
- 中部八省。貴州。四川。湖北。湖南。江西。浙江。安徽。江蘇。
- 南部四省。

直隸省

北京

福建。 廣東。 廣西。 雲南。
 直隸省 は、支那本部の最北
 に位し、現今の首府を置ける
 重要な地なり、北京は清國の
 首府にして、周圍二十五哩餘、
 繞らすに城壁を以てし、廓
 内を内城・外城の二區に分
 ち、内城に宏壯なる皇城及
 ひ諸官衙、各國公使館、貴族
 の邸宅等あり、外城は商家
 軒を並べ、往來雜沓し、商業
 繁盛なり、人口凡そ八十萬



北京城

萬里長城

天津

を有し、世界屈指の大都會なり、されど晴天には風塵空に充
 ち、雨天には道路泥濘となる、近來鐵道の敷設ありて、漢口に
 通ずる京漢鐵道は、正定に達し、一は天津に通ぜり、天津は、大
 運河の白河に會する衝路に當れる開港場にして、人口凡七
 十萬、北部商業の中心なり、されども、冬季は河水結氷して船
 舶を通ぜず、鐵道は北京より來り、萬里ノ長城の東端なる山
 海關を経て滿洲に進む、其線路に近く開平炭坑あり、白河の
 口にある太沽砲臺は、頗る堅固なりしが、明治三十三年、北清
 に義和團の暴動起りし際、各國聯合軍のため、陥れられた
 り。

山東省

山東省 は、黃海中に突出したる半島にして、繭綢の産あり、
 芝罘は開港場の一にして、豆餅・豆類等を輸出す、其東の威海

循は、渤海の入口なるが故に砲臺の設けあり、北洋艦隊の根據地なりしが、明治二十七八年の戦役に、我軍に撃破せられ、現今は英國の借地となれり、南部の膠州灣も亦獨逸への貸與地なり。

山西省

山西省は直隸省の西にあり、陰山の支脈連亘して平地少く、地味亦惡しければ、他に出稼するもの多く、従ひて商業に巧みなり、首都を太原といふ。

河南省

河南省は古支那文化の發達せし地にして、大部は黄河下流の南に位するが故に此名あり、開封はもと大梁と稱し、宋金等の舊都たりし地にして、今も本省の首都なり、河南は古は洛陽と稱し、周・後漢等の國都たりき。

陝西省

陝西省は山西省の西方にあり、渭水東に流れて黄河に入

る、此灌域は古の關中の地なり、西安は現今の首都にして古蹟多し、もと長安と呼びて、前漢及び唐の國都なりき。

甘肅省

甘肅省は陝西省の西にあり、萬里ノ長城の盡くる處これを嘉谷關といひ、山海關と東西相對す、蘭州は陝甘總督の駐在地なり。

四川省

四川省はもと蜀と稱し、揚子江の上流に位する天險の地にして、東境に巫山の峽あり、北東に蜀の棧道あり、省内は地味肥沃にして、農産物甚だ多し、重慶は馬關條約によりて開かれたる四開港の一にて、揚子江と嘉陵江との會合點に位す、成都は岷江に臨める本省の首都にして、人口繁く商業盛んなり。

貴州省

貴州省は四川省の南にありて、地勢山多く平地極めて少

湖南省

し、氣候は不順にして、人民は慄悍なり。

湖南省 は、貴州省の東にあり、南方は南嶺の脈を以て限られ、北方に清國第一の大湖、洞庭湖あり、湖畔の岳州は開港場の一にして、其の岳陽樓は眺望頗る佳なり。

湖北省

湖北省 は、湖南省の北にあり、二省を合して湖廣と稱す、楊子江及び其支流たる漢江は、省内を貫流して運輸の利に富み、又地味甚だ肥沃なり、武昌は湖廣總督の駐在地にして、江を隔てて漢口及び漢陽と相對し、恰も鼎足の如し、漢口は内地商業の中心にして、貿易頗る活潑なり、就中茶の輸出を最とす、人口凡そ八十五萬、此地より北京に通ずる京漢鐵道は、既に百餘哩間落成せり、漢陽には有名なる製鐵所あり、西方の沙市及び宜昌は、共に開港場なり。

武昌

漢口

江西省

江西省 は、湖南省の東に位す、北部に鄱陽湖あり、省中の水を集めて江に送る、九江は開港場にして、又清國第一の陶器輸出港ありなり。

安徽省

安徽省 は、江西省の北にあり、蕪湖は開港場にして、米を輸出すること甚だ盛なり。

江蘇省

江蘇省 は、黄海に面す、楊子江及び大運河等、縦横に通じて交通最も便利なり、養蠶の盛なること清國第一にして、繭・生絲の産多し、江寧は江畔にあり、江寧・安徽・江西の三省を統轄する兩江總督の駐在地にして、北京に對して南京といふ家屋は閑雅にして、文華風流、筆・墨・陶器・絹布の産する處、恰も我が京都に似たり、上海は楊子江の支流に臨み、吳淞ありと鐵道を以て連絡す、東岸屈指の開港場にして、清國輸出入總額の半

江寧

上海

は以上は此地に於て行はる中にも生絲・茶を主なる輸出品とす、人口六十二萬を有し、外國人の居留せる者少からず、我が長崎よりは四百七十二哩を隔つ、其他蘇州・鎮江等の開港場あり。

浙江省

浙江省は江蘇省の南にあり、杭州は錢塘江に臨み、宋代の臨安にして、馬關條約によりて開かれし四開港の一なり、東方の寧波は、我が遣唐使の常に上陸せし處にして、南の温州は、密柑の本場とす、共に開港場なり。

寧波

福建省

福建省は、我が臺灣と相對し、日清兩國の關門に當れるが故に、他國に讓與せざる契約あり、福州は閩江の下流にある開港場にして、重要なる輸出品を茶とす、本省と浙江省とを併せたる閩浙總督ここに駐在す、人口六十五萬あり、河口の

福州

廈門

馬尾船政局は官立の造船所なり、新開港たる三都澳は、其北方にあり、廈門は廈門島にある開港場にして、福州と共に我が臺灣との取引多くして、主要なる位置を占む。

廣東省

廣東省は清國の最南に位し、珠江の下流を占むるが故に頗る水利に富めり、省内の人民は商業に巧にして、山西省の人民と並び稱せらる、廣州は一名を廣東といふ、兩廣總督の駐在地なり、數百年來の開港場にして、人口凡そ八十五萬、清國南部商業の中心地なり、人民船居する者頗る多く、鶏犬を飼ひ、花木を植ゑ、陸上の市街に異ることなし、工業盛にして、絹布の名世に高し、汕頭は東部の開港場なり。

廣東

香港は其對岸の九龍と共に英國に讓與したる小島なり、東洋第一の貿易港にして、我國より銅・マツナ・石炭・米等を

廣西省

輸入し、砂糖を多く我國に輸出す。

廣西省の地勢は廣東省に似たり、珠江は西方より來りて全土を二分し、南嶺は其北境を限る、梧州は東方にありて珠江に臨む、英國のためにかきたる港にして、汽船の出入繁し、南部の龍州は、東京との陸路貿易場なり。

雲南省

雲南省は、廣西省の西にあり、中部の雲南は、貴州、雲南の二省を統轄する雲貴總督の駐在地にして、南部の蒙自は、印度支那に對する陸路貿易場なり。

第二節 滿洲

滿洲

滿洲は、支那本部の東北にありて、奉天、吉林、黑龍江の三省に區分せるが故に、東三省の名あり、境土廣げれども、東に長白山脈、西に興安嶺山脈ありて、支脈城內に連亘し、唐松、落葉

奉天省

松、樺等の森林多く、又各種の獸類に富み、就中貂皮は貨幣の代用をなす。

黑龍江は、洋洋として西比利亞との境を流れ、松花江は、長白山脈に發源し、北部の諸水を集めて、黑龍江に入る、流域地は平坦にして肥沃なれば、開拓上最も有望なり、又河中には魚族群をなすが故に、これを捕へて常食とする者少からず、遼河は、南部の平原を濕し、渤海に入る、此地方は、豆類、高粱、雜穀等を産すること少からず。

奉天省は、最南に位す、奉天は、一名を盛京といふ、清の太祖の始めて都したる地なり、現今奉天省の首都にして、又滿洲の首府なり、人口凡そ二十五萬、市内に府尹、將軍、五部の衙門あり、牛莊は、遼河口にある開港場にして、盛に大豆、豆餅、豆油

等を輸出す、旅順は東洋屈指の軍港なりしが、大連灣と共に明治二十七八年の戦役に、我軍のため撃破せられ、今は露國への貸地となれり。

吉林省

吉林省は奉天省の東北にあり、域内山岳多く林産に富む、吉林は松花江の左岸にありて、吉林將軍ここに駐在す、巴拉賓及ハ寧古塔は東清鐵道に沿へる要地なりとす。

黒龍江省

黒龍江省は最北にありて、黒龍江を隔てて西比利亞に對す、齊齊哈爾は黒龍江將軍の駐屯地にして、愛琿は北境の要鎮たり。

第三節 蒙古

蒙古

蒙古は支那本部の北方にあり、中央は高原にして、これをゴビの沙漠といふ、これより南を内蒙古といひ、以北を外蒙

古と稱す一般に空氣乾燥にして、冬は甚だ寒く、夏は炎熱なり、地味も亦瘠せて農産に乏しく、唯駱駝・牛・馬・羊等の家畜を以て生活の資となすに過ぎず。

ウルガ(庫倫)は外蒙古の都邑にして、庫倫辨事大臣ここに駐在す、賣買城は西比利亞の哈克圖と接し貿易盛に行はる、烏里雅蘇臺及び科布多は西北部の重鎮なり。

第四節 新疆省

新疆省

新疆省は古の西域地方一部の地にして、清國の極西にあり、天山山脈域内を横きり、地勢を南北に分つ、南を回疆といひ、北を新疆といふ、伊犁河は西流して露領中央亞細亞に入り、塔里木河は東流して羅布泊に入る。迪化は一に烏魯木齊といひ、本省の首都なり、伊犁は伊犁將

軍の駐在地にして喀什噶爾及び葉爾羌は共に印度地方との貿易場なり。

第五節 西 藏

西藏

西藏はもと吐蕃といひ喜马拉雅山脈と崑崙山脈との間に挟まり、域内を前藏・後藏の二部に分つ、世界第一の高原にして、平均の高度殆ど我が富士山頂に等し、故に交通不便にして、且つ土民は外人を嫌ふが故に、古來此地を採撿せしもの甚だ少し、喇嘛教盛行はれ、住民の過半は僧侶なり、牧畜は山羊及び犛牛最も著名なり、首都拉萨は前藏にあり、市街美麗にして宏壯なる寺院多し。

第六節 青 海

青海

青海は黄河の水源地にして、北部に青海と稱する湖あり

犛牛は最も有用なる家畜なり。

第四章 露領亞細亞

露領亞細亞 は亞細亞洲の北部及び北西部一帯の地を占む。大別して西比利亞・中央亞細亞及び高加索の三部となす。

第一節 西比利亞

位置 西比利亞 は韓清及び中央亞細亞の北方にありて、東は日本海・オホーツク海を隔てて我國に接し、Behringベーリング海を挟みて、北亞米利加洲と相對す。北は寒冷なる北氷洋の水に洗はれ、海岸に出入少く、一の港口なし。西は金屬に富めるウラル山脈を以て露西亞本國と隣りす。

地勢 清國との境を東走せるは阿爾泰山脈にして、山勢東北に變じ、ヤプロノイ山脈・スタノボイ山脈となりて東北端に盡く、これより北西は地勢次第に傾き、北部の大氷原となる。其中

山脈

地勢

境界

位置

間に一帯の平地及び森林帶あり。

河流 オブ・イェニセイ・レナの三大河は、南部に發源し、洋洋として北氷洋に注ぐ。共に亞細亞屈指の大河なれども、近寒の地を流るるが故に其用少し。東部の黒龍江は、蒙古より出で、滿洲との境を流れて、韃靼海峽に注ぐ。河口より七百哩の上流までは舟を通ずる便あり。

住民 西比利亞は土地廣大にして、我國の凡そ三十倍なれども、人口は稀少にして、凡そ十分一なり。原住の蒙古人は、牧畜漁業に従事し、移住民たる露人は、農商の業を營み、又は軍人、官吏として駐在す。其他尙數多の人種を含有す。

政治 行政上、西比利亞を黒龍江地方・東部西比利亞・西部西比利亞の三管區に分ち、東部と黒龍江地方とは總督を置き、軍政

産物

交通

民政を統轄せしむ、西部西比利亞は、行政上直に露西亞の内務省に隸せしめ、軍政上中央亞細亞のステツプ總督に屬せしむ。

氣候は甚だ寒冷なれども、地味豊饒なれば、南部の人民は農業に従事す、牧畜は一般に行はれ、礦物獸皮と共に重要な産物なり、オホーツク海及び甘察加半島附近は、頗る魚族海藻に富む。

露國義勇艦隊は、本國と浦鹽斯德との商業に従事し、一朝事ある時は、武装して巡洋艦の任を盡すものなり、其他黒龍江を上下する汽船あり、浦鹽斯德に本店を置き、日本、韓、清等を往復する商船あり、内地の交通は、處處に馬車、橇等の設けありて、地方により馬、犬及び馴鹿等を使用す。

道鐵亞利比西



西比利亞鐵道は、浦鹽斯德を起點として北行し、ハバロフスクに達す、是より黒龍江に沿ふてネルナンスクに至り、イルクツク・トムスク等を過ぎ、露西亞本國に入るものにして、全長五千哩あり、而して本線中ハバロフスクとストレンチェンスク間は未だ開通に至らず、然れどもネルナンスクより分岐し滿洲を横斷して、浦鹽斯德に達する東清鐵道の連絡あるが故に、これまでは、スエズ運河を経て、西洋に到るに四五十日を費せしも、今此の大鐵道によれば、二三週間にして、歐洲の各市に達すべし。

し。
 浦鹽斯德 は、日本海に臨める西比利亞唯一の要港にして、人口五萬餘、商業甚だ盛なり、我國より輸入する主要品は米、石炭、綿布等にして、昆布は清國に輸出する重要品なり、此の港は又軍事上必要なるが故に、露國東洋艦隊の根據地となし、砲臺を築き守備甚だ嚴重なり、されど十二月より四月まで港内結氷し、船舶の出入絶ゆ、我國人の在留するもの多く、貿易日に盛なり。
 浦鹽斯德より西比利亞鐵道にて北に赴き、魚類の多き興凱湖及び烏蘇里河に沿ふて下れば



ハバロフスクに達す、此の地は黒龍江地方總督の駐在地にして、貨幣の代用をなす黒貂皮の賣買盛なり、これより黒龍江を下れば、河口の對岸にサハレン島(樺太島)あり、島中石炭、材木に富み、近海には魚族、海藻の收穫多し、南岸なるユルサコフに我が領事館あり。
 甘察加半島は、オホーツク海の東方にありて、我が千島と南北相對す、半島中、噴火山少からず、東岸にては臘虎、膾膾獸の捕獲頗る多し。
 ハバロフスクより黒龍江に沿ふて上れば、ブラゴエシナエンスク及びチタを経てイルクツクに入る、イルクツクは、バイカル湖の西方にありて、東部西比利亞總督の駐在地なり、南境にあるハク圖は、清國の賣買城と一木柵を隔て、貿易今

イルクツク

Tchita

Baikal

キアフツ

Blagoveshchensk

トムスク

尙盛なり。

イルクツクより西走すれば、トムスクを過ぎて露西亞に入るべし、トムスクはオプ河畔に位し、大學校・中學校其他各種學校及び製造所ありて、西部西比利亞中最も盛なる處なり。

第二節 中央亞細亞

中央亞細亞 は西比利亞の西南にありて、東は清國に隣り、西は裏海に限られ、南東はバミル高原の一部を成し、北西に赴くに從ひ次第に傾き、裏海の北岸に至れば、大洋の面よりも低し。

此地方の湖沼は往古内海の遺跡なり

域内の湖沼は皆無口湖なれば、其水鹹味を帶ふ、就中アラル海・バルハシ湖を最も大なりとす、河流の著名なるもの二條あり、シル河といひ、アム河といふ、共に南東の山地に發して

Balkhash

Aral

アラル海に入る、此流域地は、地味肥沃なるのみならず、共に汽船を通ず、其他、伊犁河は清國の新疆省より來り、バルハシ湖に入る、此河谷は清國に通路の便を與ふ。

氣候 は、西比利亞に比すれば、稍温和なり、空氣は常に乾燥して、旱魃の害多し、重要な産物は、北方曠原の牛・馬・羊、南部の穀物・菓物等とす。

住民 は、土耳其種最も多し、隊商は駱駝を用ひて貿易に従事す、此地は、ステツプ總督・土耳其斯坦總督の二管區に分ち軍政を以てこれを管治す。

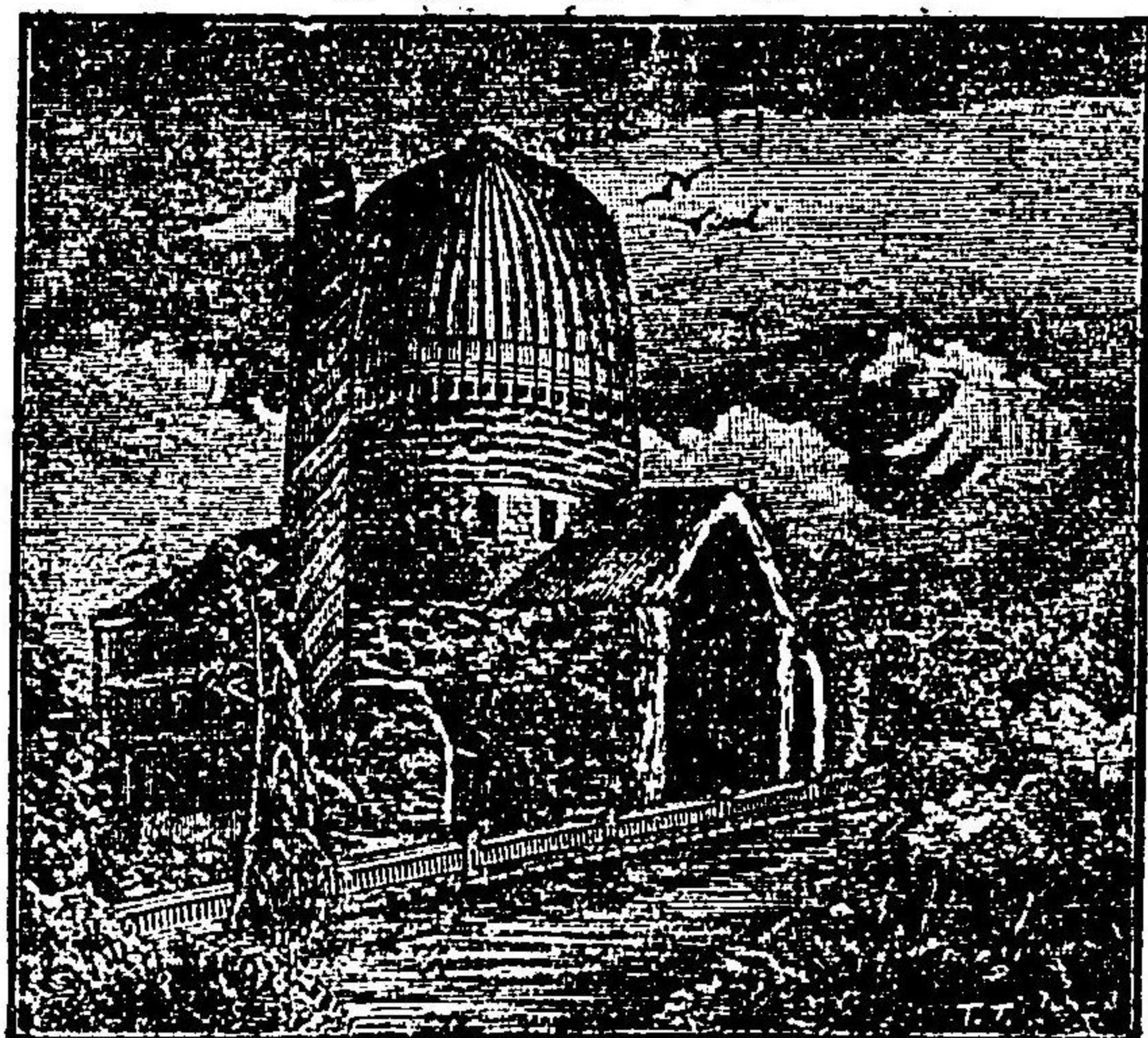
タシケントは、南部貿易の中心にして、土耳其斯坦總督此處に駐在す、其西南なるサマルカンドは、往昔有名なる帖木兒の都せし地にして、壘址今尙存す、裏海の沿岸より來れる軍

Tashkent

Samarland

高加索

帖木兒ノ墳墓



て、高加索山脈東西に横はりて、地勢を南北二部に分つ、南部を後高加索といひ、亞細亞洲に屬し、北部を北高加索といひ、歐羅巴洲に屬す。

用鐵道は、サマルカンドを經て東方に至る、オムスク Onsk は北端にありて、西比利亞鐵道に沿ひ、北部及び西部西比利亞を管するステツプ總督の駐在地なり。

第三節 高加索

高加索 は、裏海と黒海との間に挟まれる地方にし

住民

住民 は、高加索人種にして、容貌の美を以て著はる、此人民は音樂を好むこと甚しく、終日業を廢すること少からず。テフリスは、クル河 Kur 畔にあり、總督の駐在地にして、波斯との貿易盛なり、鐵道は黒海の岸より來り、東走してバクー Baku に入る、バクーは裏海の要港にして、堅固なる砲臺あり、近傍は世界屈指の石油産地にして、我國に輸出するものも少からず。

位置
境界

第五章 亞細亞土耳其

亞細亞土耳其

は高加索の南西にありて、東の大部は波斯に接し、一部は波斯灣に臨み、南は亞刺比亞に連り、西と北とは地中海・黒海の水に洗はる、高加索との境に、史上に名高きアララット山あり、波斯のエルブールズ山脈の續きにして、アルメニア高原をつくり、西走して小亞細亞の脊骨をなす。
 Armenia
 エウフラト・ナグリスの二大河は、アルメニア高原に發源し、メソポタミアの平原を濕し、下流相合して波斯灣に入る、此流域地は、上古文化の大に開けし處にして、バビロン城・ニヌア城等の廢墟今尙在す。
 Mesopotamia
 Babylon
 Ninua

河湖

湖水の著名なるものを、シリアの南部にある死海とす、沿岸は世界第一の低地にして、地中海面より千三百尺低し、其水

Syria

住民

政治

に鹽分を含むこと多くして、魚族生存することを得ず。
 人口凡そ一千七百五十餘萬ありて、土耳其人種多數を占め、又希臘人・亞刺比亞人等雜居す。

此國は、歐羅巴土耳其の領地にして、處處に牧長を置き、各地方の政務を掌らしむ、重要なる農産物には、穀物・棉花・煙草・阿片等あり、製造品は生絲・毛布等を最とす。

Smyrna

スミルナは西岸にありて、歐羅巴諸國との貿易港なり、ダマスカスはシリア貿易の中心にして、イエルサレムは、基督教史上最も有名なる處なり、ナグリス河畔のバクダードは、昔時、

Jerusalem

亞刺比亞學藝の中心たりしも、今は大に衰へたり。

Baghdad

キプロスは小亞細亞の南地中海にある英領の大島にして、葡萄を産す。

Kypros

第六章 亞刺比亞

位置

地勢

亞刺比亞 は、紅海と波斯灣との間に突出したる、本洲南部三大半島の一にして、地勢南部は最も高く、北西に赴くに従ひ次第に傾き、遂にシリア沙漠に連續す。

住民

住民 は、回教を信ずる亞刺比亞人種最も多し。産物は、南部の棗・珈琲を主とす。棗は住民主要の食物にして、珈琲は輸出品の最たり、馬は天下に其名高く、駱駝は沙漠の船と稱して貴重の家畜とす。

區劃

域内を獨立部・土耳其領・英吉利領の三部に分つ。獨立部は、内地と東方の海岸とにあり、内地は概ね沙漠の高原にして、殆ど降雨なく、氣候炎熱なり、東端をオマーンといひ、ムスカット其首府なり。
Oman
Muskat

土耳其領は左右の海岸地にして、其の紅海岸のメッカは、ム

Mekka

ハメツドの生地にして、メヂナは墳墓の地なり。

Muhammed

Medina

英吉利領を亞丁といふ、南部のバベルマンデブ海峡に臨め

Babelmandeb

る一小區にして、其亞丁港は、紅海の口を扼し、東西兩洋を航行する船舶の寄泊所なるが故に頗る繁盛なり。

第七章 イラン地方

イラン地方 ^{Iran} とは、波斯及び阿富汗斯坦・ヘルナスタン三國の總稱にして、東は印度に接し、西は亞細亞土耳其に隣りし、南は亞刺比亞海を控へ、北は露領中央亞細亞に連る。

第一節 波斯

波斯 は、裏海と波斯灣との間にある王國にして、イラン高原の大部を成し、其内部は鹽質の沙漠に富み、西北方のエルブールズ山脈は、亞細亞土耳其に接す。

降雨稀にして、空氣乾燥なれば、冬夏晝夜共に寒暑の差甚し。國人一般に禮義を重んじ、温雅の風あり、近來漸く開化に赴けり。政治は、純然たる君主專制にして、法律は皆回教の教典に基けり、生業は農を主とし、穀物・果實・棉花・砂糖を産す、其他

位置 地勢 氣候 政治 産物

テヘラン

絹布・毛氈等の工藝品を出す。

首府テヘランは、エルブールズ山の南麓にあり、王宮は壯麗

Teheran

なれども、市街は不潔なり、イスパハンは、國の西南部にある

Ispahan

舊都にして、ブシールは、波斯灣に臨める開港場なり。

Bushire

第二節 阿富汗斯坦及ベルチスタン

波斯と印度との中間にありて、北部を阿富汗斯坦といひ、南部をヘルナスタンといふ、ヒンヅークシ山脈は、阿富汗斯坦の中部を東西に連亘し、地味多くは礫礫なり。

阿富汗斯坦は、數多の部落に分れ、各酋長あり、これを總轄する王はカブールに住す、カブールの南方にカンダハルあり、ヘルナスタンの大部は英領にして、一部は酋長の支配なれども、亦英國の保護を受く、其首府をケラットと稱す、東方の

Kabul

Kandahar

Kelat

位置 地勢

ケタは、要害の地なるが故に、英國派遣兵の駐屯地なり。
Quetta

第八章 印度 附 緬甸

位置 印度 は、ヒマラヤ山脈以南の廣大なる地域にして、南部は半島状をなし、印度洋の水に洗はる、面積凡そ百五十餘萬方哩ありて、幾んど我國に九倍す。

地勢 地勢自ら分れて北中南の三部となる、北部をヒマラヤ山地といひ、ヒマラヤ山脈東西に連亘して、西藏との境をなす、其

山脈 ガウリサンカル峯は、海拔凡そ二萬九千餘尺ありて、世界最高の峰とす。中央に印度の大平原あり、此地方を貫流する

河流 印度河・恒河・ブラマプトラ河の三大河は、ヒマラヤ山脈の南

北に發源す、其印度河流域は、概ね不毛の沙漠なれども、恒河・ブラマプトラ二河の流域は、世界屈指の沃地にして、農産物に富み人口最も密なり、南部をデカン高原といひ、略、三角形
Deccan

をなせり。

本土の氣候は、我國の如く四季の別なくして、二季に分る。毎年四月より十月までは、印度洋より濕風吹き來り、多量の降雨あり、此時を雨季といふ。雨量の多きこと世界第一とす。又十月より四月までは、内陸より乾風吹き、降雨稀なり、此時を乾季と稱す。

印度の住民は、凡そ三億ありて、古代に於て、本洲の西部より移住せしアーリア人種Arjans最も多く、概ね中部に住し、黑人種これに次ぎ、南部の高地に住む。佛教は此國に起り、國古く、早く文明の域に達し、我國上古の文化も此國に負ふ所多きも、現今佛教の信徒少く、多數の人民は、婆羅門教信者なり。社會の階級に四あり、僧族を最上とし、兵族これに次ぎ、農商これに

氣候

住民

宗教

族制

政治

産物

次ぎ、賤民を最下とし、各交際せず、これ國勢の振はざりし主要の源因なり。

全部殆ど英國の領地にして、英國皇帝の任命に係る大總督これを統轄し、分ちて直轄部及び藩部となし、直轄部には總督或は知事を置き、藩部には保護を與ふ、其他掌大の佛蘭西領及び葡萄牙領あり。

全國の大部分は、地味肥沃にして、氣候炎熱なるが故に農産物に富めり、其主要なるを恒河流域の米及び西部の棉花とし、阿片・茶・藍等これに次ぐ、工業の重なるものは、印度更紗及び絹布・毛織等にして、畜産には象・水牛・駱駝最も著はる。其他奇異なる動植物多く、大木には榕樹榕あり、猛獸には獅子・虎・豹あり、亦毒蛇あり、鱔魚あり。

貿易

此の如く産物饒多なるが故に貿易は古より頗る盛にして、カルカッタ・孟買・マドラスを三中心とす、主要なる輸出品は米・棉花・阿片・茶等にして重要なる輸入品は、金属器・綿布・砂糖・機械等なり、我國よりは石炭・マツナ等を輸入し、我國へ棉花・藍・皮類を輸出す。

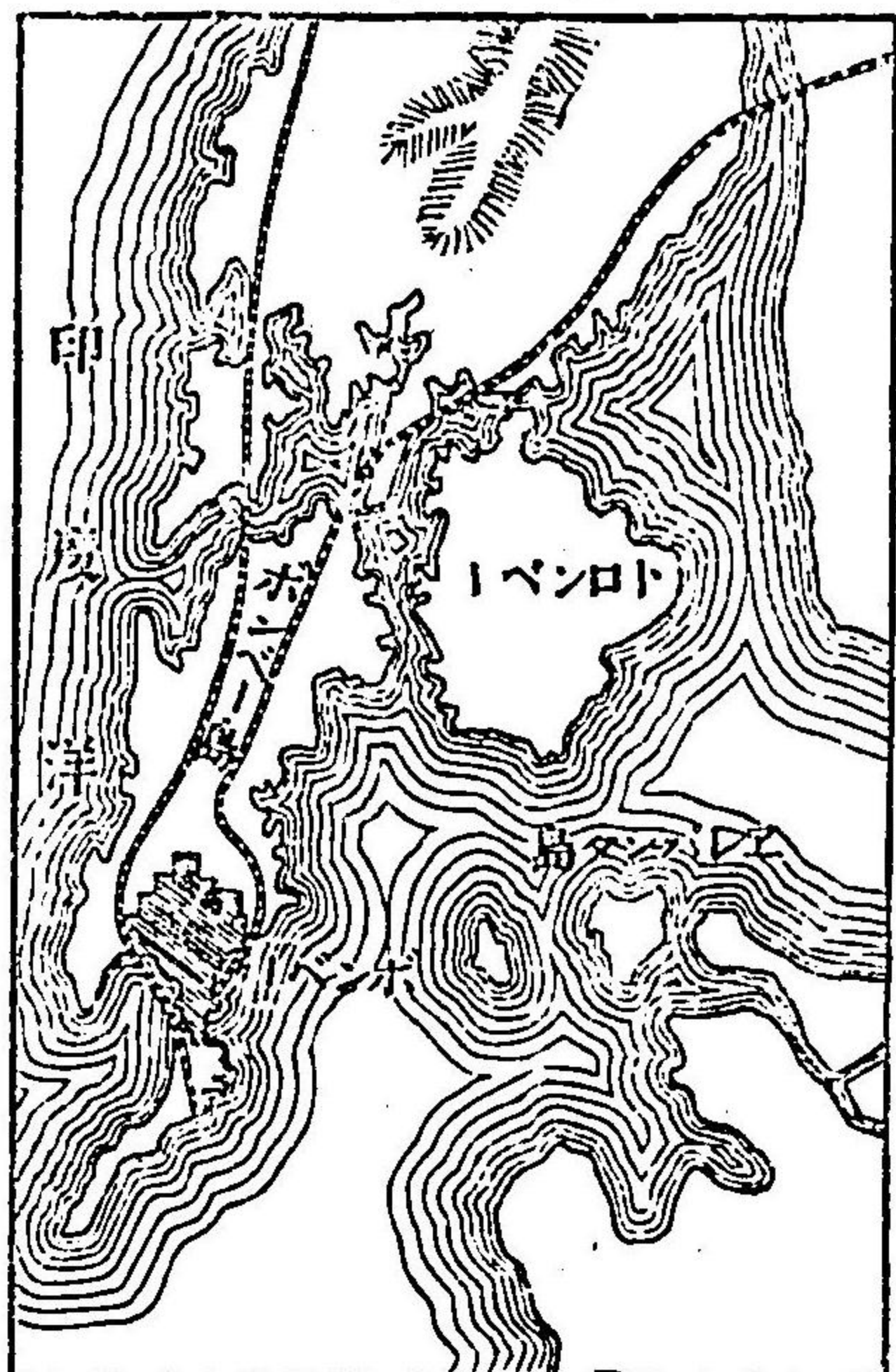
交通

道路は不完全なれども、水運の便あると、二萬四千哩の鐵道ありて、交通便利なり。カルカッタは、恒河の三角洲に立ち、水利甚だ便なり、人口百餘萬を有し、貿易甚だ盛にして、米を主要なる輸出品とす、英領印度の首府にして、印度大總督ここに駐在す、カルカッタより、廣茫たる水田の間を汽車にて北西行すれば、パटना及びベナレスあり、パटनाは米・阿片産地の中心に位す、これよ

カルカッタと我國の大坂と相似たる點多し

錫蘭島

錫蘭島は、南方にありて英國の直轄地なり、氣候炎熱にして、椰子・珈琲・茶・肉桂等を産すること多し、西岸に在るコロン



孟買近傍

り西北に赴けば、阿富汗斯坦に入り、又西南行すれば、西岸の孟買に達す、沿道は一面の棉花産地なり。孟買は印度第一の貿易港にして、人口七十七萬あり、我國紡績の原料たる棉花は、主として此港より來る。マドラスは東岸にあり、良港にあらざれども、樞要の位置を占むるが故に、貿易頗る盛なり。

Colombo

緬甸

ボは東西洋を航行する船舶の寄泊所なるが故に著名なり。
緬甸 は、印度支那半島の西北部にありて、英領印度の一州をなす、北部は山地にして、船材に供するナークを多く出し、南方には肥沃の平野ありて、イラワヂ・サルウインの二河これを貫流し、灌漑自在にして、水田相望む、イラワヂ河口のラングン港は、米の輸出盛なり、我國は名高きラングン米は、此港より來るもの多し、舊都マンダレンは中部にありて、ラングンと汽車の便あり。

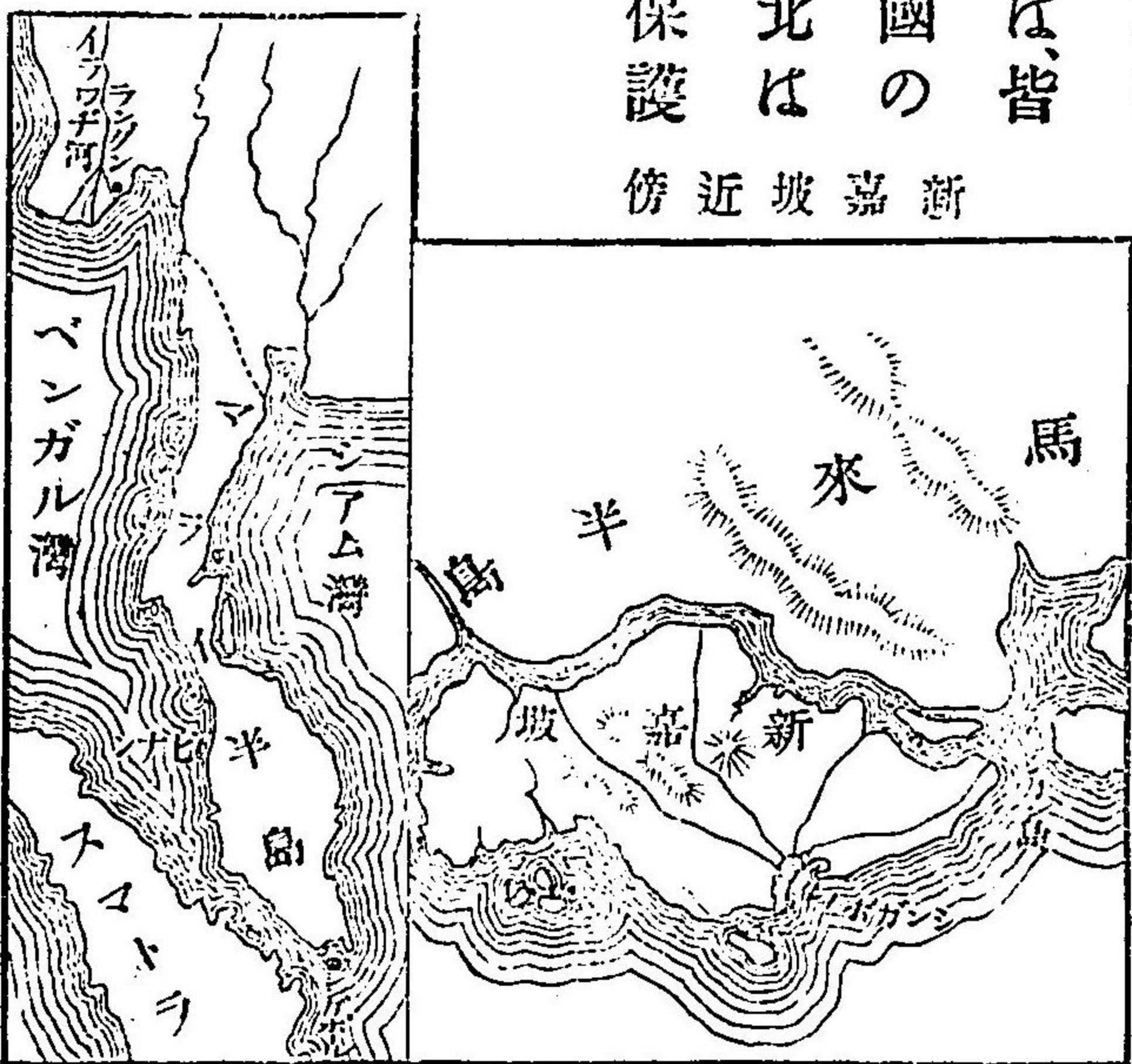
位置

新嘉坡

第九章 英領海峽殖民地

緬甸の南に突出したる半島を馬來半島といふ、南部のマラカ及び新嘉坡・ピナンの二島を合せて英領とす、此の諸港は、皆自由貿易港なるが故に、諸國の貿易者の出入盛なり、其以北は獨立の部落にして、英國の保護を受く。

新嘉坡 は、半島の南端に近き小島なれども、良港を有すると、東西南三洋の航通路に當れるとを以て、港



Malacca

新嘉坡近傍

内は貿易頗る繁盛なり、我國領事館の設けあり、此地は殆ど赤道直下に位し、炎暑甚しけれども、夏季は毎日午後に降雨あるが故に生活に適せり。

第十章 暹羅

位置

暹羅は、印度支那半島の中央に位する王國にして、東は佛領印度支那に接し、北と西とは緬甸に隣り、南の大部は暹羅灣に臨み、一部は馬來半島に連る。

地勢

北部は山岳多くして、木材を出し、南方は平地多くして、米穀を産す、地勢此の如くなるが故に、河川は皆南流す、東境を流るる大河を媚公河といひ、西方なるを媚南河ナムナムといふ、共に廣大なる沃地をつくり、一は佛領に入り、一は暹羅灣に注ぐ。

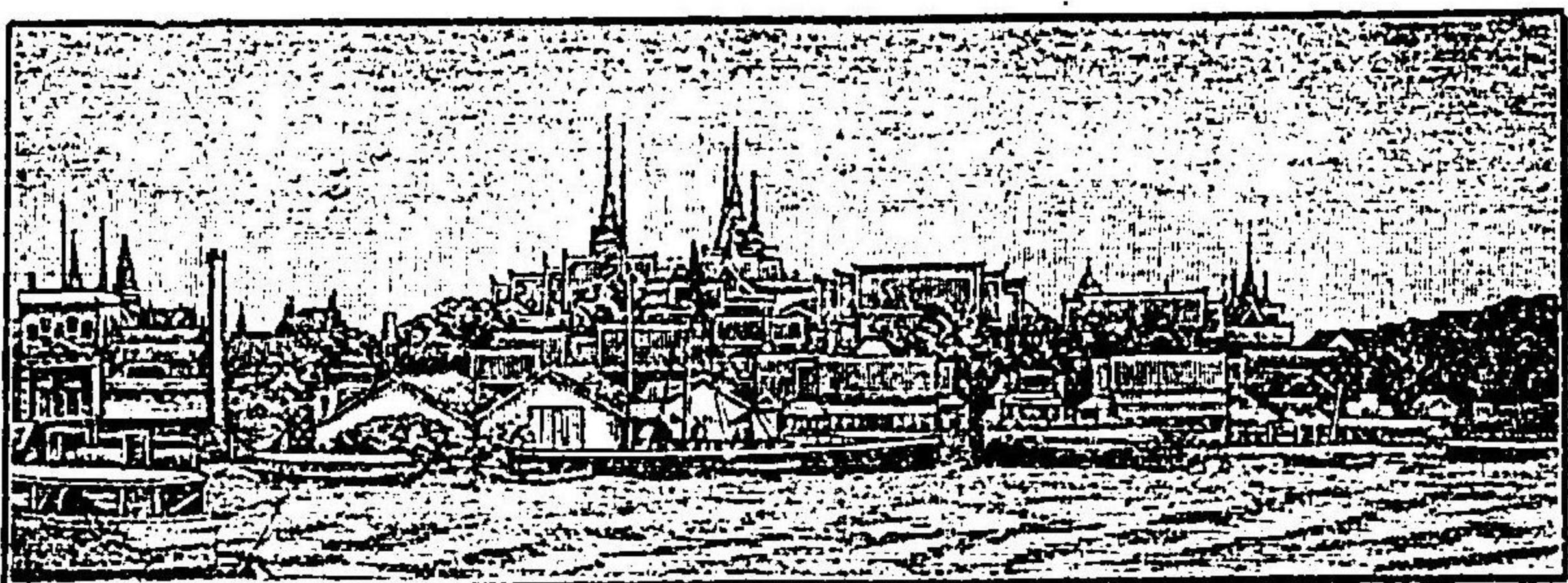
住民

此國の住民は、佛教を信奉する蒙古種最も多く、又馬來種を混ず、性質温和なれども、遊樂に耽り、勤勉するもの少し、然れども近來、國王、歐米の學術・技藝を採用し、國運の開発に努めらる。

政治

貿易

盤 谷



政治は君主専制にして、内閣及び参議院これを輔佐するも、其長官は必ず王族より撰ぶの制なり、古より我國との關係密接にして、山田長政の事蹟は人口に膾炙する處なり。

國內の地味肥沃にして、多額の米を産し、山林よりは木材を出し、外國貿易盛なり、重なる輸出品を米・魚類・木材（チーク）等とし、主要なる輸入品はマツ・サ・綿布・洋傘・雜貨等なり。

首府を盤谷バンコクといひ、湄南河に臨み、溝渠縱横に通じ、内外通商の中心にして人

口六十餘萬を有し、印度支那半島第一の大都會なり、王宮・官衙・寺院等、壯大なる建築物多し、我が公使館及び領事館あり。

第十一章 佛領印度支那

位置 佛領印度支那 は、東京・安南・交趾支那・東蒲寨の四部より成り、暹羅の東にある狹長の國にして、安南山脈、國內を縦貫せるが故に、中部は高原なれども、南方の媚公河灌域と、北部の東京河流域には、平地ありて、住民少からず。

産物 土地熱帯に位し、雨量も亦少からざるが故に、産物多く、米は其收穫夥しく、輸出品の第一位を占め、我國に輸入するものみにて、其量頗る多し、其の他棉花、木材（ナーク）等を出す。

第一節 東京

位置 東京 は、最北にありて、支那本部に接す、内地は山岳・丘陵多く、石炭を産し、海岸地方は平坦にして、米を出すこと夥し、首府を河内（ハイン）といひ、東京河畔にありて、佛蘭西より派遣せる佛

領印度支那總督の駐在地なり。海防は要港にして、近傍の貨物皆此處に集り、貿易盛に行はる、河内との間に運河ありて、交通自在なり。

第二節 安南

位置 安南 は、東京の南にある王國にして、佛蘭西保護の下にあり、農産物に富み、人民の風俗は清人に類す、首府を順化（フンホア）といひ、北部の海岸にありて、王の宮殿は頗る華麗なり、佛蘭西は此地に堅固なる砲臺を築けり。

第三節 交趾支那

位置 交趾支那 は、最南端なる媚公河の三角洲に當り、地味肥沃にして、夥しく米を産す、首府を柴棍（サイゴン）といひ、媚公河口に位し、貿易盛にして、米を輸出すること夥し。

位置

第四節 東蒲寨

東蒲寨 は、安南の西にある王國にして、佛蘭西の保護を受く、土地豊饒にして米を重要なる産物とす。

位置

第十二章 馬來群島

馬來群島 は、印度支那半島の南東に散在せる諸島の總稱にして、マカッサル・ロンボクの二海峡を以て大洋洲と界す、これを分ちてスマタ列島・フィリピン群島の二となし、和蘭・英吉利・北米合衆國に分屬す。

Sunda

Philippine

此群島の地は、火山作用劇烈にして、地震も、また少からず、ジ
アバ島の如きは、四十餘の火山を有し、クラカマウ島は、明治
十六年に大破裂をなし、殆ど全世界に影響を及ぼし、我國に
ても太陽銅色を呈したること人の知る處なり。

Java

Krakatau

氣候
産物

本土の全部は、熱帯に位するも、海洋性の氣候なるが故に、其
割合に酷熱ならず、雨量多く地味肥沃にして、天産に富み、香
料・珈琲・砂糖・煙草・竹類を出すこと少からず。

第一節

スンダ列島

(大小の二部に分ち、小スンダ諸島はメラネシアの部に入る)

Melanesia

マアバ

本部の南西なるシアバ・スマトラ・ボルネオの諸大島と附近の小島とを合せて大スンダ列島と稱す。シアバ島は、地味豊沃なると、和蘭政府の開拓に力めしとにより、低地にては甘蔗・椰子樹繁茂し、砂糖を産すること多く、高地よりは珈琲・畿那を出す。パタビアは西北岸にありて、總督ここに駐在し、各島の政務を總轄す。スマトラ島はシアバ島の西にありて、北はマラカ海峽を隔てて馬來半島に對し胡椒・石油を名産とす、其東方のバンカ島は、錫の産を以て名あり。

スマトラ

Patavia

Bangka

ボルネオ

ボルネオ島の北部は英領にして、サンダカンは其首府なり、其西岸に近きラブアン島よりは石炭を産す、其の他の大部

Labuan

Sandakan

位置

は和蘭に屬するも、其權力の及ぶ處は海岸の地に限る、主要の産物を金剛石・金・鐵・樟腦等とす。

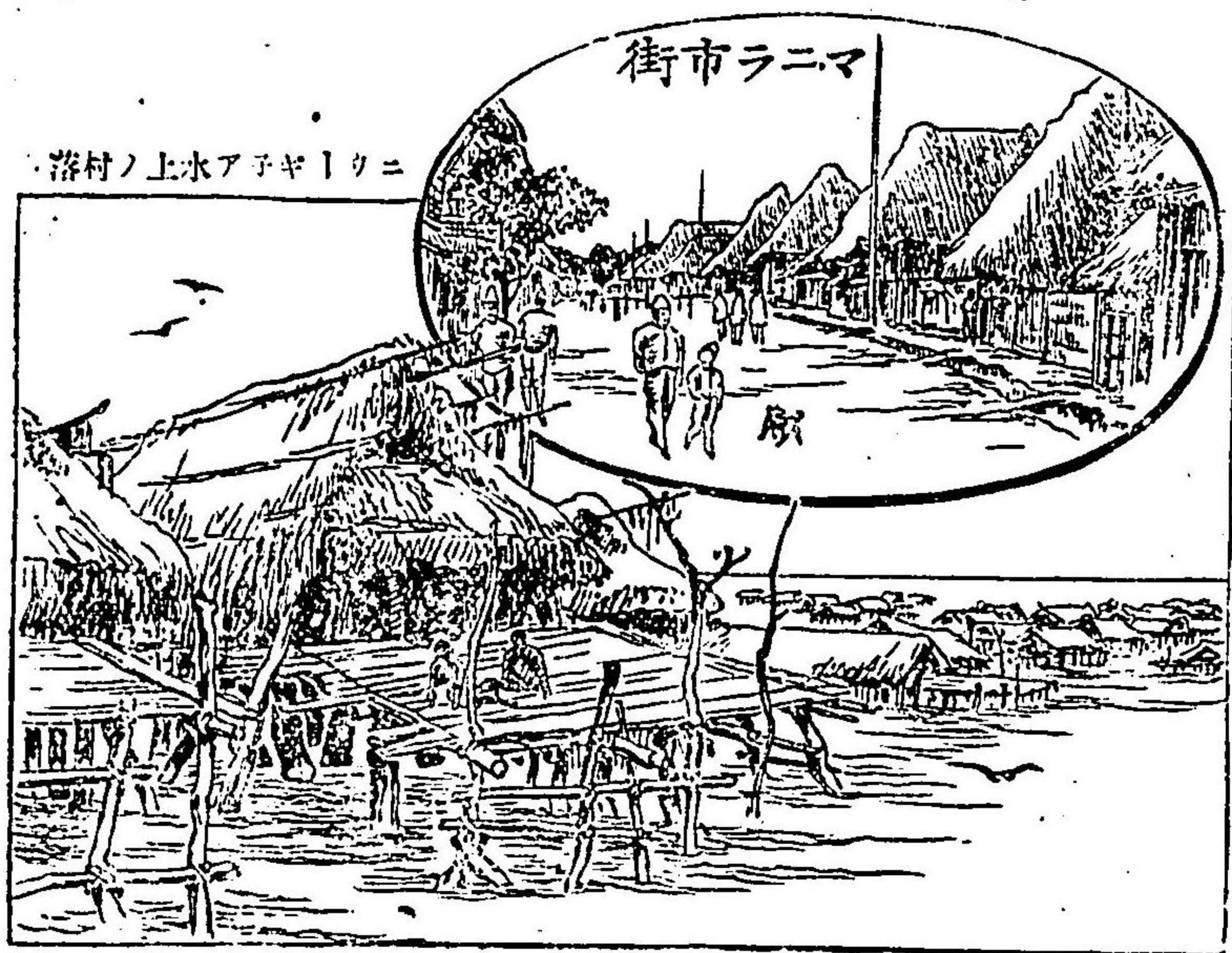
第二節 フィリピン群島

ン群島

フィリピン群島は、北

米合衆國領にして本部の東北に位し、我が臺灣と相對す、島の最大なるを呂宋島といひ、ミンダナオこれに次ぐ、氣候暑く、雨量十分な

Mindanao



産物

るが故に植物よく生育し、砂糖・マニラ麻・煙草・珈琲・藍等を夥しく産す。されど八九月の頃には暴風の害多く、二百十日前後に、我國に襲來する暴風は、本島の近海より起る。呂宋島の西南にある首府マニラManilaは、南洋貿易の中心にして、卷煙草の製造最も盛なり。本邦との貿易も漸次繁盛に赴かんとし、我が領事館の設けあり、現今我國より石炭・漆器・扇子等を輸入し、我國に砂糖・煙草・マニラ麻等を輸出す。

第二編 大洋洲

第一章 總論

位置	大洋洲は、東半球の南東にありて、濠太利亞大陸と、太平洋中に散布せる大小無數の島嶼の總稱なり。東は南北兩亞米利加洲に對し、西は印度洋に限られ、我國より遠く南方に當る。面積は三百五十萬方哩ありて、歐羅巴洲より少しく小なり。これを大別してオーストララシア・メラネシア・ミクロネシア・ポリネシアの四群島とす。
境界	
面積	
區劃	<i>Australasia</i> <i>Melanesia</i> <i>Micronesia</i> <i>Polynesia</i>

第二章 オーストララシア

オーストララシア 中、著名なるものを濠太利亞・タスマニア及び新西蘭となす。
Tasmania

地勢

山脈

河流

内部は砂岩より成れる一面の高地にして、山脈は東海岸及び西海岸に連亘す、高地の大部は沙漠にして、數多の鹹湖處に散在す、山脈中、高峻なるものは東岸にあり、其最大なるを濠太利亞アルプと稱す、其西にマurlay河あり、本洲第一の大河にして、上流まで舟楫の便あれども、河口に沙洲あるが故に、小舟をも尙海より入ること能はず、其他内地には多少の河流なきにあらざれども、曠原を貫流して砂礫の間に消滅す。

第一節 濠太利亞

濠太利亞

海岸

氣候

濠太利亞 は、亞細亞の南東に位する大陸にして、面積凡そ三百萬餘方哩あり、海岸は單純にして凸凹甚だ少し、北方にヨーク半島及びアルネムの二大半島突出して、カーペンタリア灣を扼く、ヨーク半島は、トレス海峡を隔ててニューギニア島に對し、木曜島此間にあり、木曜島は眞珠貝を産すること多きが故に、本邦人の出稼者多し、南方にはスペンサー灣及び濠太利亞灣の外、著しきものなし、東岸は小出入頗る多く、良港灣少からず、沿海には一大珊瑚礁あり、陸地と並行して遙に北方に延ぶ、其長さ凡そ千三百哩あり。
本大陸の中央高原は、乾燥酷熱なれども、四周の海岸は海洋性氣候なるが故に、寒暑の差は概して甚しからず、殊に東海岸は、冬は南東風を受けて雨量多く、氣候中和にして産物多

産物

ユーカリ樹は高さ二百尺以上のもの少からず
ダックビルは水陸兩棲の哺乳動物にして卵生なり
カンガルは四足獸なれども前肢は用をなさず

住民

く、濠洲寶庫の名あり。
本部固有の動植物は何れも珍奇なりといへども、其種類極めて少し、植物にはユーカリ樹・アカシア等あり、動物にはダックビル・カンガル等あり、現今盛に産出する有用動植物は小麥・玉蜀黍・甘蔗・棉花・羊・馬・牛等にして、其中羊毛の産出は、世界の首位を占む、又金は最も重要な産物にして、東南部諸地方より多量に産す、其他銀・石炭等の産出も又少からず。
總人口凡そ三百七十萬ありて、英國人最も多く、全住民の凡そ九割を占む、これに次ぐを清國人及び獨逸人等とす、在來の土人たる濠太利亞黑人種は、世界最劣等の種族にして、千七百八十八年以來、漸次其數を減じ、現今は僅に三四萬に過ぎず。

區劃

政治

交通

きず。

全土英國の領地にして、分ちてビクトリア・ニューサウスウエールス・クイーンズランド・南濠太利亞及び西濠太利亞の五州となし、各獨立の政府及び上下兩院より成れる議會を設く、但し各政府の長官は、英吉利王の任命に係る總督これに當る、近時此五州は、タスマニアと聯合して、濠太利亞聯邦を組織し、大總督を置きて、政治上の統一を計れり。
内地の交通は極めて不便なりしが、鐵道は日日延長し、重要な都邑、鑛山、牧場間を連絡せり、郵船はメルボルン・シドニーを中心として、近傍の諸港間を航行し、又歐米各國との航通頻繁なり、我が日本郵船株式會社船は、香港を経て木曜島より、濠太利亞の沿岸諸港に至る。

ビクトリア

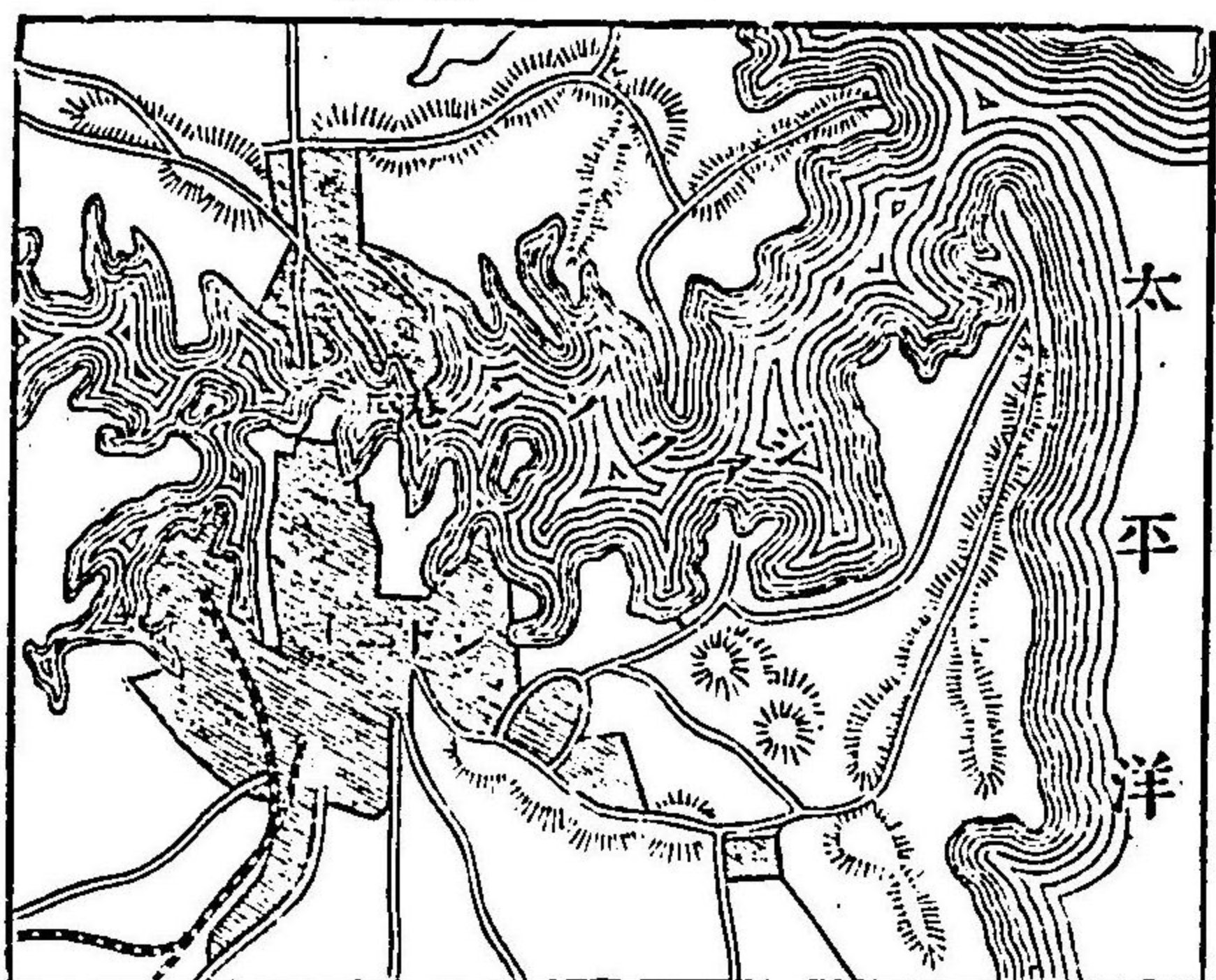
ニューサウス
ウェールズ

ビクトリア州 は、東南部にあり、全大陸中最も早く開けたるは、世界屈指の産金地たるによる。現今鑛業・農業・牧畜等甚だ盛にして、鐵道は州内何れの地に至るも、概ね通ぜざる處なし。首府メルボルンは、本州第一の大都會にして、人口五十萬、官衙・大學校・博物館等、建築の宏大なるもの多し。貿易も繁盛にして、羊毛・金の輸出頗る夥多なり。

ニューサウスウェールズ州 は、ビクトリア州の北にあり、小港灣出入して、風景頗る佳なるのみならず、貿易上必要なるもの多し。住民は専ら農業・牧畜商業等に從事し、羊毛・麥類・馬鈴薯・葡萄等を重なる産物とす。首府シドニーは、港内波穩に水深く、貨物の上下に便利なる等、世界有數の良港と稱せられ、日本郵船株式會社船の航路に當り、現今濠太利亞艦隊の

クインズランド

近附 ニドシ



根據地として要塞の設けあり、守備嚴重なり。市内の人口四十萬我國の領事館あり、ニューカッスルは其北にある良港にして、石炭の輸出盛なり。

クインズランド州 は、本大陸の東北隅にありて、羊毛・金を重なる産物とす。首府をブリスベーンといふ。其北西にタウンズビルと稱する良港ありて、金及び畜類を輸出す。ここに本邦領事館の設けあり。

南濠太利亞

南濠太利亞州

は、全大陸の中部を占む。内部は乾燥にして

不毛なれども、南部は農業發達し、牧畜・鑛業も盛なり、首府を
アデレードといひ、我が日本郵船株式會社船の南洋航路の
終點なり。
Adelaide

西濠太利亞

西濠太利亞州 は、西方の大部を占むれども、概ね沙漠不毛
の地なり、首府をパースと稱す。
Perth

第二節 タスマニア

タスマニア

タスマニア は、濠太利亞大陸の南東にありて、バス海峡を
挟むも、英國の殖民地なりしが、現今は濠太利亞聯邦の一
部をなす、島内は山岳湖沼に富み、風景頗る佳なり、氣候温和、
地味肥沃なるが故に、住民は農業・牧畜に従事し、小麥・果物及
び羊毛を産す、又金銀の産少からず、首府ホバートは、南海岸
にありて、羊毛・果物の輸出盛なり。
Hobart

第三節 新西蘭

新西蘭

新西蘭 は、タスマニアの東方にありて、南北の二大島と、附
近の小島とより成る、氣候は温和にして、夏は暑熱を覺えず、
冬は又寒氣甚しからず、山脈は全土を縦貫し、南島にては、西
岸に接して高山秀岳に富み、北島にては、東岸に偏して火山
多し、河流は凡て細流なれども、割合に舟運の便あり、地味は、
概して豊沃なるが故に産物多し、主要の輸出品は羊毛・凍肉・
金等なり、此地も英領にして、總督ありてこれを管治す、首府
ウエリントンには、北島の南端にありて、クック海峡に望む、オ
ークランドは本部第一の商港にして、又海軍の根據地なり。
Wellington
Cook
Auckland

メラネシアとは黒人島の義なり

第三章 メラネシアの

メラネシアは濠太利亞大陸の北方にある群島にして、概ね赤道以南にあり、マカツサル・ロンボクの二海峡を挟みて、亞細亞洲の馬來群島に連る。小スンダ列島は火山に富み、セレベス島は四つの半島より成る。其東方に香料諸島あり、これ等の大部は和蘭の領地にして、唯、^{Timor}ナモル島の東半部のみ葡萄牙に屬す。氣候は炎熱なるが故に、天産物少からず、中にも丁子・肉荳蔻・珈琲・ココア等を重なるものとす。

ニューギニア

ニューギニア島は、又バプアといふ、濠太利亞大陸の北にある大島にして、面積略我國に二倍す。山脈は東西の方向に連亘して、樹木に富み、良材を出す。殊に烏木・蘇木最も多し。又平地は氣候炎熱、地味肥沃にして、煙草・甘蔗の産少からず、政

治上、本島の西半部は和蘭に屬し、東の半部は英吉利・獨逸に分屬す。其の東方なるビスマルク群島及、^{Bismarck}ピソロモン群島の大部は獨逸領たり。新カレドニア島は、佛領中最も重要な島にして、ニツケルを産すること甚だ多し。故に本邦人の坑夫として在留するもの少からず。

ミクロネシア
とは小島の義
なり

第四章 ミクロネシア

ミクロネシア は、我が小笠原群島と赤道との間に羅列し、其地質構成の性質により、火山島・珊瑚島の二種に分つ、火山島は山岳突起し山脚海岸に迫れるが故に平地少く、珊瑚島は低平にして、或は環状をなし、或は火山島の縁をなして、内部に潮水を湛へ、安全なる港灣をつくる。

此等の諸島は、悉く熱帯に位すれども、海風の調和によりて、暑氣を凌ぐことを得、産物は土人の常食なる麵包菓椰子及び甘蔗・砂糖等とす。

群島中、英領なるシルベルト、獨領なるマルシアル・カロリナ及び獨米兩國に屬せるラドロナ群島（一名マリアナ群島）を著名なりとす、ラドロナ群島は我が小笠原群島の南方五百

Gilbert

Marshall

Caroline

Ladone



九〇
連にありて大小十五の火山島より成り、我が富士火山脈に
接続す。住民は凡そ一萬餘あり。

第五章 ポリネシア

ポリネシアとは衆島の義なり

ポリネシアは、ミクロネシアの東南方に散在し、火山島及び珊瑚島より成る。氣候温和、地味概ね肥沃にして、甘蔗・鳳梨・芭蕉・珈琲等は主要の産物なり。

フィジー群島

各群島中、最も著名なるものをフィジー及びサンドウィッチ諸島とす。フィジー群島は、新西蘭の北方にありて、二百餘の

小島より成る。氣候温和にして産物多く、砂糖・麵包・菓最も名

高し。全部英吉利の領地なり。東方に獨米領なるサモア群島。

佛領なるソシエテ諸島等あり。

サンドウィッチ諸島は、我國の東方にありて、横濱を距る

こと三千四百餘哩。本邦より北亞米利加に航する衝路に當

り、十二の火山島より成る。其最大なるを布哇島といひ、オア

サンドウィッチ諸島

Oahu

フ島これに次ぐ、各島は氣候温和、地味肥沃にして砂糖・米・棉花等を産出す、本邦よりの出稼人は六萬に達して、總人口の三分一を占め、土人の數よりも多し、此國はもと土人の王國なりしが、西曆千八百九十八年より北米合衆國と合併して其一部となれり、首府をホノルルHonoluluといひ、オアフ島にあり、港内水深く船舶の出入頻繁なり、我が東洋汽船株式會社の米國航路の汽船は、ここに寄港す、我が領事館の設けあり。

中等最新地理教科書

外國之部上巻終

中
等
最新地理教科書

文學士萩野仲三郎
加藤庄三郎 共編

外國
下

明治
37 3 31
内交

東京
大阪
集成堂藏版

中等最新地理教科書

外國之部下卷

目次

第三編 歐羅巴洲

第一章	總論	一
第二章	露西亞	九
第三章	瑞典那威	一五
第四章	丁抹	一八
第五章	獨逸	二〇
第六章	奧地利匈牙利	二七
第七章	瑞西	三三
第八章	佛蘭西	三四

第九章	白耳義	四〇
第十章	和蘭	四三
第十一章	英吉利	四六
第十二章	西班牙	五三
第十三章	葡萄牙	五五
第十四章	伊太利	五七
第十五章	バルカン諸國	六二
第一節	羅馬ニア	六二
第二節	セルビア	六二
第三節	モンテネグロ	六二
第四節	土耳其	六二
第五節	希臘	六五

第四編 阿弗利加洲

第一章	總論	六六
第二章	北部阿弗利加	七〇
第一節	埃及	七〇
第二節	バルバリー地方	七二
第三章	中部阿弗利加	七五
第一節	サハラ	七五
第二節	スダン	七六
第三節	西部海岸地方	七七
第四節	ユンゴ自由國	七八
第五節	東部海岸地方	七九
第四章	南部阿弗利加	八三

第一節	英吉利領	八二
一	ケープ殖民地	八二
二	ナタル殖民地	八三
三	オレンジリバー殖民地	八三
四	トランスバール殖民地	八四
第二節	獨逸領南阿弗利加	八五
第五章	島嶼	八六
第一節	印度洋諸島	八六
第二節	大西洋諸島	八六
第五編	北亞米利加洲	
第一章	總論	八八
第二章	綠洲	九三

第三章	加奈陀	九四
第四章	北米合衆國	九九
第五章	墨西哥	一〇八
第六章	中央亞米利加	一一〇
第七章	西印度諸島	一一二
第六編	南亞米利加洲	
第一章	總論	一二五
第二章	北部諸國	一二〇
第一節	ユロンピア	一二〇
第二節	ベネズエラ	一二〇
第三節	ガイアナ(英・蘭・佛領)	一二二
第三章	西部諸國	一二三

第一節	エクアドル	………	一三三
第二節	秘露	………	一三三
第三節	ポリビア	………	一三四
第四節	智利	………	一三六
第四章	東部諸國	………	一三八
第一節	アルヘンチナ	………	一三八
第二節	ウルグアイ	………	一三九
第三節	パラグアイ	………	一三九
第四節	伯西	………	一四〇
第七編	結論		
第一章	土地人民	………	一三三
第二章	産物	………	一三八

第三章	貿易及び交通	………	一四二
第四章	世界各國ノ屬地	………	一四六
第五章	日本と各國との關係	………	一四九
第六章	世界各國の財政及び兵力	………	一五二
第七章	世界に於ける我國の地位	………	一五三

中等最新地理教科書

外國之部下卷

文學士 荻野伸三郎 共編

加藤庄三郎

第三編 歐羅巴洲

第一章 總論

歐羅巴洲は東半球の西北にありて、大部分は温帯に位し、南端といへども我が東京より緯度高く、北方は寒帯に入るも、一年中結氷せざる處あり。

東は、^{Ural}ウラル山脈及びウラル河等を以て亞細亞洲に連り、南は地中海を挟みて阿弗利加洲と相對し、西と北とは大西洋及び北氷洋の水に洗はる、面積凡そ三百八十萬方哩ありて、

位置

境界

面積

海岸

大洋洲よりも稍大なり。
海岸線の長きこと六大洲中他に比すべきものなく、數多の半島・岬角・海灣等出入し、島嶼も亦少からず。北氷洋には多少の凸凹あれども、寒威強く、結氷の期永きが故に良港灣なく、白海のみ稍著る。これに反して、南西二方は海岸の出入夥しく、船舶の交通極めて頻繁なり、今著名なる半島・島嶼及び海灣を擧ぐれば左の如し。

西部

- スカンデナヴィア半島 *Scandinavia*
- 丁抹半島
- ブルターニウ半島 *Bretagne*
- バルト海及びボスニア灣 *Baltic Bohnia*
- 北海
- ビスカヤ灣 *Biscay*
- 氷州 *アイスランド*
- 英吉利群島

南部

- イベリア半島 *Iberian*
- 伊太利半島
- バルカン半島 *Balkan*
- クリム半島 *Crimea*
- リオン灣 *Lion*
- アドリア海 *Adriatic*
- 多島海
- 黒海
- バレアール群島 *Balearic*
- ユルシカ及びサルデニア *Corsica Sardinia*
- シナリア島 *Sinaria*
- 希臘群島 *Sicilia*

地勢

本洲の脊骨たるアルプ山脈は、南部にありて東西に蜿蜒し、多くの支脈を出す。此山脈中には廣大なる氷河ありて四方に流下す。又此山は舊時交通の一大障壁たりしが、今は隧道を通じて、數多の鐵道を敷設せり。其西方に連亘せるはピレネー山脈にして、更に其西にあるをカンタブリア山脈と稱し、共にイベリア半島の北境をなす。又東走せるものは、南北二派に分れて、匈牙利平原を抱き、再び合してバルカン半島

山脈

平原

の脊梁たるバルカン山脈となる。其他金屬及び良材に富めるウラル山脈は、亞細亞洲との境に連亘し、スカンデナヴィア山脈は、スカンデナヴィア半島の主軸をなし、共に南北の方向に走る。

本洲の山脈は、此の如く偏境に位せるが故に、南部の地は概ね高原性をなせとも、ウラル山脈以西は、廣茫たる露西亞大平原にして、中央に低卑なるバルダイ連岡あるのみ、其南東部に至れば、地中海の面より低し、中部は鬱蒼たる大森林地なり、此西に獨逸平原ありて、西南方に連亘す。

本洲は、河流に富み、且つ其配置よろしく、加ふるに何れの河も、多く運河を以て連絡し、灌溉・舟運の便あり、従つて大都名邑は概ね河畔にあり、ボルガ河は歐洲第一の大河にして、西

河流

湖沼

方のドンドニエプルの諸川と共に、露西亞平原を貫流し、運河を設けて裏海・黒海及びバルト海を連絡す、ドナウ河は、アルプ山脈の北方に出で、匈牙利平原を濕し、黒海に入る、上流に運河の設けありて、ライン河は、アルプ山脈の水を集め、地味肥沃なるロンバルディア平原をつくりてアドリア海に注ぐ。

其他、大西洋斜面のガロンヌ河を利用し、運河によりて、ビスカヤ灣とリオン灣とを連ね、セイヌ河及びライン河も亦運河によりて、其水相通ず。

又バルト海より、ヅーナ河を溯りて、黒海に通ずる運河は、現今工事中なり。

湖沼は、二大群をなす、北部の平原には、數多の淺き湖沼あり

氣候

て、ラドガ・オネガの二湖最も大なり。南部なるアルプ山脈地
方も亦湖沼に富み、水深く、風景絶佳にして、レマン・ユンスタ
ンツの如き最も名あり。
Leman Constance

天産

本洲の北部少許の地を除けば、他は悉く温帯に位し、海洋の
影響を受くるが故に、氣候温和にして、他の同緯度の大陸よ
りも温暖なり、而して其西部の、東部よりも温和なるは、灣流
と風との影響による、雨量は、處によりて、差あれども、大西洋
及び地中海の沿岸は多量にして、東部に赴くに從ひて少し。
土地、氣候によりて、各種の天産物あり、南部温暖の地には葡
萄・橄欖・橙・無花果・米等の産多く、中部の平原地方は農産頗る
盛にして、麥類・亞麻・大麻・馬鈴薯等を産し、山地よりは木材を
出すこと夥しく、牧畜には羊・馬・牛等最も多し、鑛物は石炭・鐵

住民

及び金銀銅を最とし、東境のウラル山脈よりは貴金屬を出
す、又石炭は世界總産額の過半を占む、北部のスカンジナウ
イア山脈よりは、堅緻なる木材を出し、西北の海中には鱈・鯡
の産多し。

住民の大部分は、高加索人種中のアーリア派にして、別れて
四種となる、ケルト種は、概ね西方の一局部に住し、希臘拉丁
種は、重にアルプ山脈以南の諸國を占め、ネエートン種は、北
部諸國に多く、スラブ種は東部に住す、其他蒙古種に屬する
土耳其人は、重に東南部にラップ人・フィン人は、北部に住居
す。總人口三億五千萬ありて、西部と南部とに最も多く住し、
東北部は稀少なり、これ交通の便否と、氣候の寒暖とによる
や明なり。

政治上、歐羅巴洲は左の諸國に別たる。

露西亞 瑞典・那威

丁抹 獨逸

埃地利・匈牙利 瑞西

佛蘭西 白耳義

和蘭 英吉利

西班牙 葡萄牙

伊太利 ロマーニア
Roumania

セルビア モンテネグロ
Serbia Montenegro

土耳其 希臘

此他尙 モナコ・アンドラ・サン・マリノ等二三の小國あり。
Monaco Andorra San Marino

第二章 露西亞

露西亞は本洲の東部にある大國にして、面積二百九萬方哩ありて、歐羅巴全土の半より少しく大きく、我國の凡そ三倍あり。

此國は、東方のウラル山脈を除けば、全國一面の大平原にして、唯中央に低阜なるバルダイ連岡あり、これより西南及び東北に、低丘連亘して、南北の分水界をなす、其以北は卑濕の平原にして、湖沼頗る多く、且つ北氷洋岸附近は、凍野と稱し、僅に蘚苔及び灌木の粗生を見るのみ、されど、中部は世界有数の大森林地にして、これより南西は黒土深く、面積廣大にして、地味穀物に適し、歐洲の寶庫と稱せらる。河流の大なるものをボルガとす、中部のバルダイ連岡に發

源し、數多の支流を受けて裏海に注ぐ、流れ緩にして舟運の利あり、又魚類に富む、運河を以て上流よりはバルト海に通じ、下流よりはドン河に連る。ドニエプル河は、ドン河と共に南方沃土の間を貫流す、此河とバルト海に注ぐるツィナ河とを連絡する運河あり、北部の河は冬季間結氷し、交通の用をなすもの少し。

湖水は北西部に群をなす、其最大なるをラドガ湖及びオネガ湖とす、ラドガは、歐洲の最大湖にして、我國の四國島より大なり。

本國を大別して露西亞本部・ポーランド・フィンランドの三部となす。
Poland Finland

住民は凡そ九千七百餘萬ありて、概して愛國の精神に富む、

湖沼

區劃

住民

希臘教を以て國教となし、皇帝は又教法統治の主宰者なり、高等及び中等の教育は、盛に行はるれども、初等教育は未だ幼稚なり、されは貴族・富豪の者には學者あれども、一般の人民には無學の者少からず。

政體は君主專制にして、參議院・元老院・教務院及び内閣これを輔佐す、地方は五總督管區に分ち、民治・軍政を統べしむ、陸軍は八十餘萬の常備兵あり、海軍は五十五萬噸餘の外に、十六萬噸の義勇艦隊ありて、世界第三の海軍國と稱せらる。國の南西部は、廣大なる沃土にして、農業頗る盛なり、主要なる農産物は小麥にして、大麥・燕麥・亞麻・大麻・甜菜等これに次ぐ、牧畜も南部に行はれ、良種の馬を出す、其他中部の木材、裏海岸の食鹽、ウラル山脈の金・白金・鐵、諸河流の魚類も産額頗

産物

軍備

政治

貿易

交通

聖彼得堡

る多し、工業も近來大に進み、各種の工場多し、就中綿布の製造最も盛なり。

内地貿易は各都邑に於て盛に行はるるも、ニジニノブエロドを其中心とす、外國貿易は、聖彼得堡、オデッサ、リガを三中心とし、穀物、亞麻、木材、礦物、毛皮等を輸出し、茶、棉花、毛布等を輸入す、我國には石油を輸出し、我國より米、生絲を輸入す。地勢平坦にして、河川は流れ緩に、運河縦横に開けて、汽船は自由に其間を往來す、然れども冬季は結氷するが故に、糧を用ふる處少からず、鐵道は北東方、沍寒の地を除きては、到處に敷設せられて、各都邑間を連ね、延いて外國線に連れり。聖彼得堡は首府にして、フィンランド灣頭なるネバ河口に跨り、人口百二十六萬餘の大都會なり、冬季は河海結氷し

リガ

モスクバ

て交通を絶てども、夏季は各國の船舶輻輳して貿易頗る盛なり、クロンスタット島は、其咽喉をなせるが故に、砲臺を設け、守備甚だ嚴重なり、又バルト艦隊の根據地とす、リガ港は、リガ灣頭にありて、貿易繁盛なり。

モスクバは、舊都にして、國の中央にあり、鐵道及び道路は四通八達し、又水運の便あるが故に、商工の業盛に行はる、人口九十八萬あり、其東方にあるニジニノブエロドは、北部歐亞の衝路に當れるが故に、七八九月に開市し、取引甚だ盛なり。

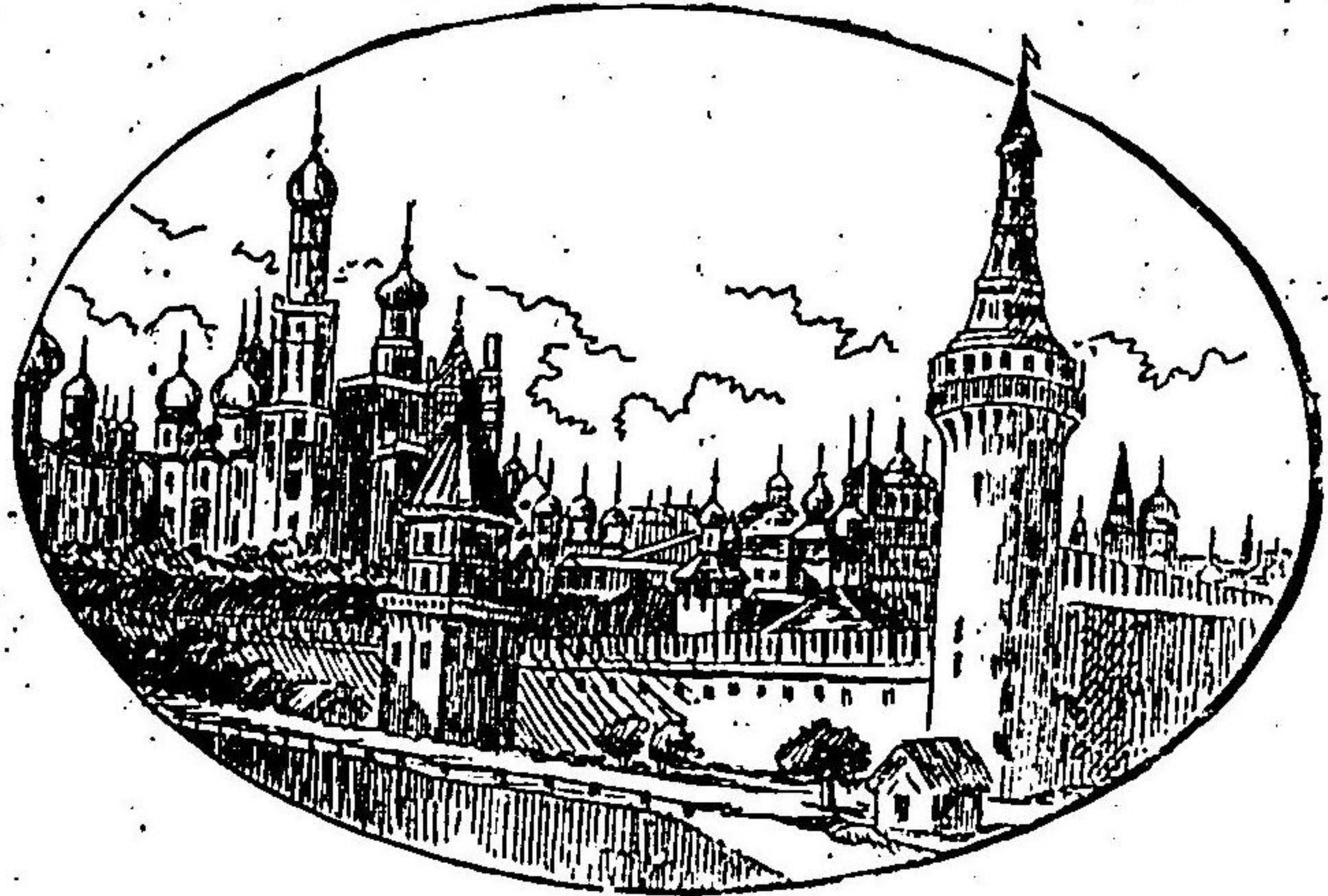


聖彼得堡

オデッサ

ワルシャワ

モスクバ宮殿



オデッサは露國第二の開港場にして、盛に小麥・亞麻・木材等を輸出す。露國義勇艦隊は、此地を根據として、本港と東洋の大連灣及び浦鹽斯德間との商業に従事す。其東南、クリム半島の南端をるセバストポルに、堅固なる砲臺あり。
 瓦ルシニアは、もとポーランド王國の首府にして、人口六十餘萬商業・工業共に盛なり。
 領地。此國の領地は、亞細亞洲の西比利亞中央亞細亞及び高加索の三にして、清國の旗順口・大連灣

も亦其借領する處なり。

第三章 瑞典・那威

位置 境界 地勢

海岸

瑞典・那威は、露西亞の西北に突出したるスカンデナヴィア半島の全部を占め、東にはバルト海深く凹入して、ボスニア灣となり、西は大西洋の水に洗はる。
 北方にスカンデナヴィア山脈連亘して、二國の境界をなせとも、南走するに従ひ、那威の主軸となる。故に瑞典の南部と東部とは、概ね平原なれども、那威は一般に高地にして、海岸には、頗る狭長なる峽灣數多ありて、恰も鋸齒の如く、中には、長さ八九十哩に及ぶものあり、其兩岸は絶壁をなし、無數の群島前面に横はる。この海岸一帯は、灣流これを通過するが故に、最北なる寒帯の地といへども、結氷することなし、又雨

河湖

住民

政治

産物

世界三大漁場
とは那威の西
北米の東北
及び我が北海
道の沿海なり

ストックホルム

量は、西岸に多くして東岸に寡し。

国内に數多の河川あれども、皆細流なり、湖沼は其の數多く、
中にも南部のウエーネル湖を最も大なりとす。
Wener

住民は、性質勇敢にして、信義に厚く、又教育の普及を以て有
名なり、宗教は新教多く行はる。

政體は、立憲政體にして、瑞典王は那威王を兼ねれども、兩國
各獨立の政府及び議院ありて、各別に政治を行ふ。

堅緻なる木材を出し、魚類と共に輸出品中の重要なるもの
なり、鑛物は種種あれども、瑞典の鐵は、良質を以て著はる、漁
業は那威に盛にして、其沿海は、世界三大漁場の一に數へら
れ、鱈、鯡の收穫頗る多く、肝油の輸出盛なり。

ストックホルムは瑞典の首都にして、マール湖口四十餘
Stockholm Malar

の小島上に立ち、風光頗る佳なり、ゲーテボルグは南部にあ
りて、丁抹と相對し、貿易盛に行はる、クリスチアニアは、那威
の首都にして、同名の灣に臨める開港場なり。
Goteborg Christiania

第四章 丁抹

位置

丁抹 は、獨逸の北方に突出したるユトランド半島及び近

Jutland

地勢

傍諸島の總稱にして、面積我が九州よりも小なり、地勢平坦

産物

にして、西海岸は不毛の砂土なれども、其他は地味概ね肥沃

住民

業を營むものも少からず、氣候は濕潤にして雲霧多し。

政治

住民は、天性勤勉にして、貯蓄の風に富み、各個人平均の貯蓄

金高、世界第一とす。

政體は立憲王政にして、教育普及し、首府には大學及び書籍

館の設けあり。

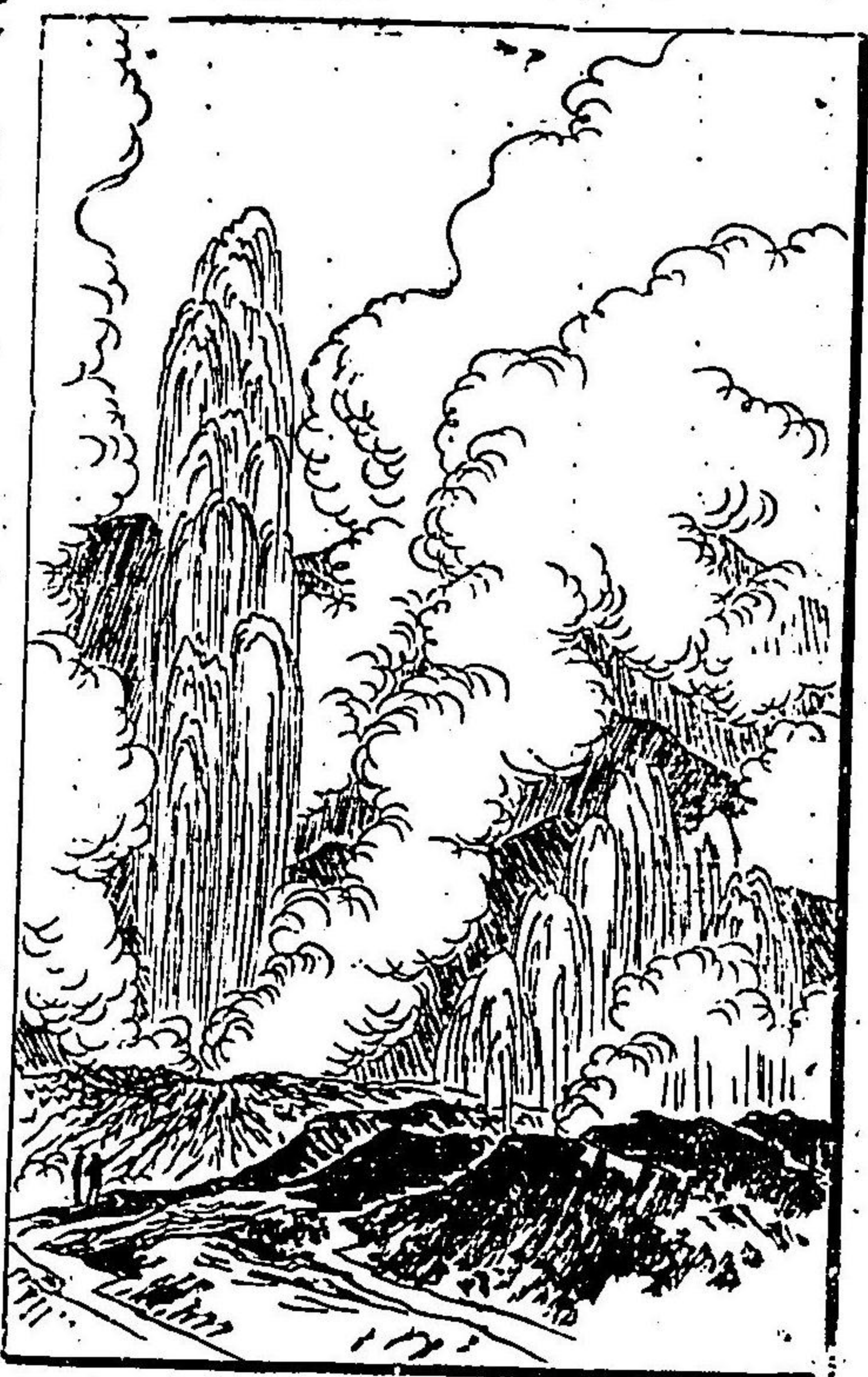
コペンハーゲン

コペンハーゲン は、首府にして、シエラランド島にあり、人

口三十餘萬を有し、貿易繁盛なり。

Seeland

泉歌間のドンラスイ



領地 フェル

群島は、那威の

西方にありて、

住民漁業に従

事す、其西方の

氷州は、面積凡

そ本國の三倍

に近く、火山及び温泉少からず、此の他、北亞米利加洲の綠州も丁抹の領地なり。

第五章 獨逸

位置

地勢

河流

獨逸は又日耳曼ともいふ歐洲の中部に位し、二十五の聯邦と、一帝領州とより成る面積は二十萬餘方哩ありて、我國より少しく大なり、地勢は天然に分れて南北の二部となる、中央のハルツ山以南を高地獨逸といひ、以北を低地獨逸といふ、低地獨逸は廣大なる平原にして、北はバルト海及び北海に盡き、東は露西亞平原に連り、西は和蘭の低地となる、南部は山岳起伏し、鬱蒼たる森林に富む、温度は南部と北部との間に大差なし、これ南部は高く、北部は平地にして海濱なるが故なり、此南北兩地は地質・天産物に差あるのみならず、氣質・宗教等に至るまで相違せり。

河流は、皆南部に發して概ね北流す、最大なるをライン河と

住民

教育

宗教

す、瑞西より來り、和蘭に入る、其の流域地は肥沃にして、運河を以て佛蘭西の諸河及びドナウ河に連續せるが故に、交通頗る便利なり、其東方のエルベ・オーデル等の諸河は、平野の間を迂回し、舟運・灌漑の利に富む、其他バルト海より北海に通ずるキール運河あり。

この國はニュートン人種の本國にして、人口五千六百萬あり、性質堅忍不撓にして、愛國心に富み、勇敢にして尙武の風あり、且つ學問を好むこと亦深きが故に、教育普及し、全國に二十餘の大學ありて、外國の遊學生も少からず、ベルリン大學の如きは、四千五百餘の學生を有す、教育の隆盛推して知るべし。

宗教は、聯邦毎に制度を異にすれども、一般に信教は自由

政治

王國、四

プロシア

バワリア

ワイルテンベルヒ

サクソニア

大公國、六

バーデン

オルデンブルク

ヘッセン

「メクレンブルク

シュエリン」

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

「メクレンブルク

にして、約住民の六割は新教にして、三割は舊教に属し、餘の一割は猶太人にして猶太教を信ず。

此國は、普佛戦争以來四王國・六大公國・五公國・七侯國・三自由市府・一帝領州を以て、現今の聯邦を組織し、普魯西王、これが盟主となりて帝國に君臨し、政治及び軍務を統轄す、従つて皇帝は、外國に對し、獨逸帝國を代表して、宣戰媾和の權を有すれども、戦争の性質防禦的にあらざる時は、必ず聯邦議會の協賛を要す。議會は、聯邦議會と帝國議會との二より成る。聯邦議會は、各國を代表するものにて、各聯邦政府これを任命し、帝國議會は、一般人民これを選挙す。

陸軍は、常備兵五十九萬ありて、世界中最も精銳の稱あり、蓋し此國今日の富強を致したるは、陸軍と教育とに依れると

産物

貿易

交通

いふも過言にあらざるなり、海軍は四十萬噸餘の軍艦を有し、世界第五位を占む。

北部諸河の流域は、地味概ね肥沃にして、農産に富み、麥類最も名あり、其他甜菜・葡萄・亞麻等の産も頗る多し、中部及び南部は森林多く、加ふるに林制完備せるが故に、國內の需要を滿たすのみならず、輸出品の重要なるものの一なり、鑛産は鐵・石炭を最とし、金・銀・銅これに次ぐ、工業は近來非常に進歩し、製鐵を第一とし、砂糖・織物・麥酒・陶器の製造これに次ぐ。

前記の物品は、重なる輸出品にして、羊毛・小麥・珈琲等は輸入品の主なるものなり、我國よりは米・銅等を輸入し、フランス・ル・羅紗・砂糖等を我國に輸出す。

交通の機關は、甚だ完全にして、河流・運河・鐵道・道路等は、恰も

ベルリン

網の如く沿海は船舶の航通
頻繁なり。

ベルリン は首府にして、エ

ルベ・スプレーの二河を連絡

する運河に臨み、鐵道、道路は

四方より集り、水陸の交通甚

だ便利なり、人口百八十八萬、

世界第四の大都會にして、此

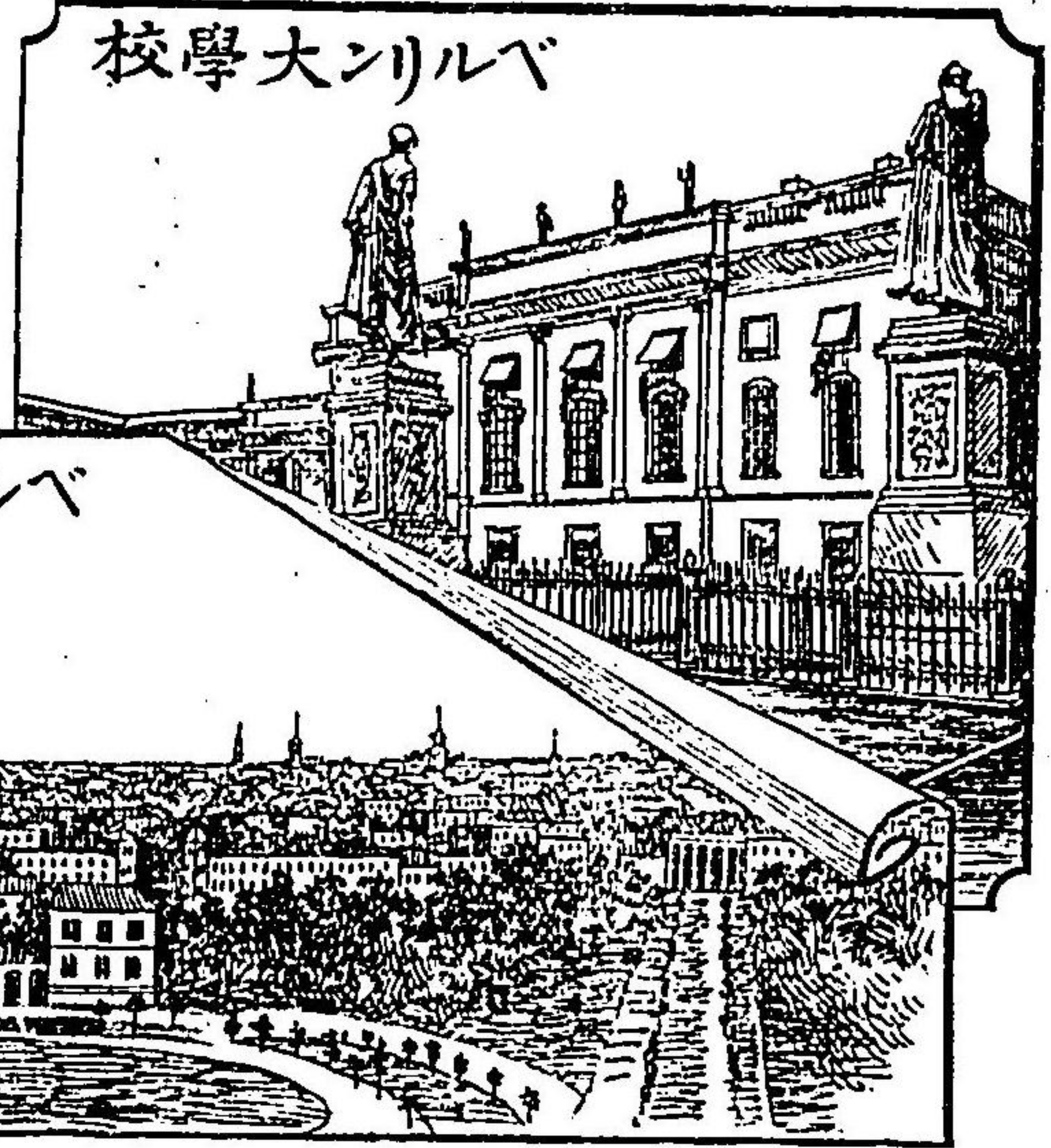
國商工業の中心たるのみならず、世界

中、學問、政治の要地なり。

ハンブルグ は、獨逸第一の貿易港に

して、エルベ河の下流にあり、近傍のり

校學大ニルベ



街市ニルベ



ハンブルグ

ドレスデン

ウベック、ブレイメンと共に、獨逸の三自由市にして、大船・巨

舶雲集し、貿易日に盛なる、英國のロンドンをも凌がんとす、

人口七十萬餘あり、ブレイメンは、ウエーゼル河の口に近く、

獨逸第二の貿易港なり、ドレスデンは、サクソニア王國の首

都にして、エルベ河の上流に位し、壤地利との交通繁く、其西

北のライプナヒは有名なる書籍市場なり、其他スプレー河

上流のブレスラウは、屈指の陸路貿易場にして、羊毛の取引

頗る盛に、南部のミウンヘンは、精良なる麥酒製産地にして、

人口五十萬あり、西部のケルンは、商業盛にして、其北のエッ

センは、クルップ製造所を以て有名なり。

領地。領地の重なるものは、阿弗利加洲の西南及び東岸、大

洋洲のニューギネアの一部、并にビスマルク群島等にして、

清國の膠州灣も亦其の占領する處なり。

位置

山脈

河流

第六章 埃地利・匈牙利

埃地利・匈牙利 は、獨逸の東南に位する大國にして、面積二十四萬方哩、南の一部はアドリア海に臨み、アルプ山脈は、國の西部に連亘す、山脈これより二條に分れ、南部にあるを東アルプ山脈といひ、概ね低卑なり、北東にあるをカルパチア山脈といひ、獨逸の國境より東走し、南に折れて半圓形をなし、中央に匈牙利の大平原を抱く、此の平原は地味肥沃にして、此國主要の農産地なり、全國の氣候は、海に瀕することの少きと、山地多きとによりて、寒暑の差甚しく、山地に雨稍多きも、平地は熱病流行す。

ドナウ河は、獨逸の南部より來り、數多の支流を入れ、匈牙利平原を環流して、カルパチア山脈を切斷し、ロマーニア國を

住民

過ぎて黒海に入る。此河は歐洲の大河にして、河口より上流まで船を通じ、更に運河によりて、ライン河に連る。

この國は人口凡そ四千三百萬あり、スラブ・蒙古・チユートン等の人種混淆して、風俗言語等も種類多く、統御上甚だ不便なり。教育は、墺地利に於ては殆ど、完全なれども、匈牙利にては不振なり。宗教は舊教最も行はれ、新教・猶太教も亦行はる。政體は立憲政にして、墺地利の皇帝は、匈牙利王を兼ねれども、二國各異なる政府及び議會を有し、陸海軍・財政・外務の外は、全く内政を別にせり。陸軍は、三十六萬の常備兵ありて、海軍も稍盛なり。

政治

産物

全土概ね肥沃なれども、東部は特に農業に適し、小麥・馬鈴薯・葡萄・亞麻の産多く、西部は工業盛にして、織物・玻璃等を出す

交通

こと少からず、其他、牛・馬・羊及び石炭・鐵・山鹽の産あり、主なる輸出品は、小麥・砂糖・葡萄酒等にして、主なる輸入品は、羊毛・棉花等なり。

此國は陸路貿易盛なるが故に、鐵道は縦横に連絡し、加ふるに、ドナウ河及び其支流は、交通甚だ便利なり。

ウィーン *Vienna* は、首府にしてドナウ河の南岸にあり、歐洲中樞

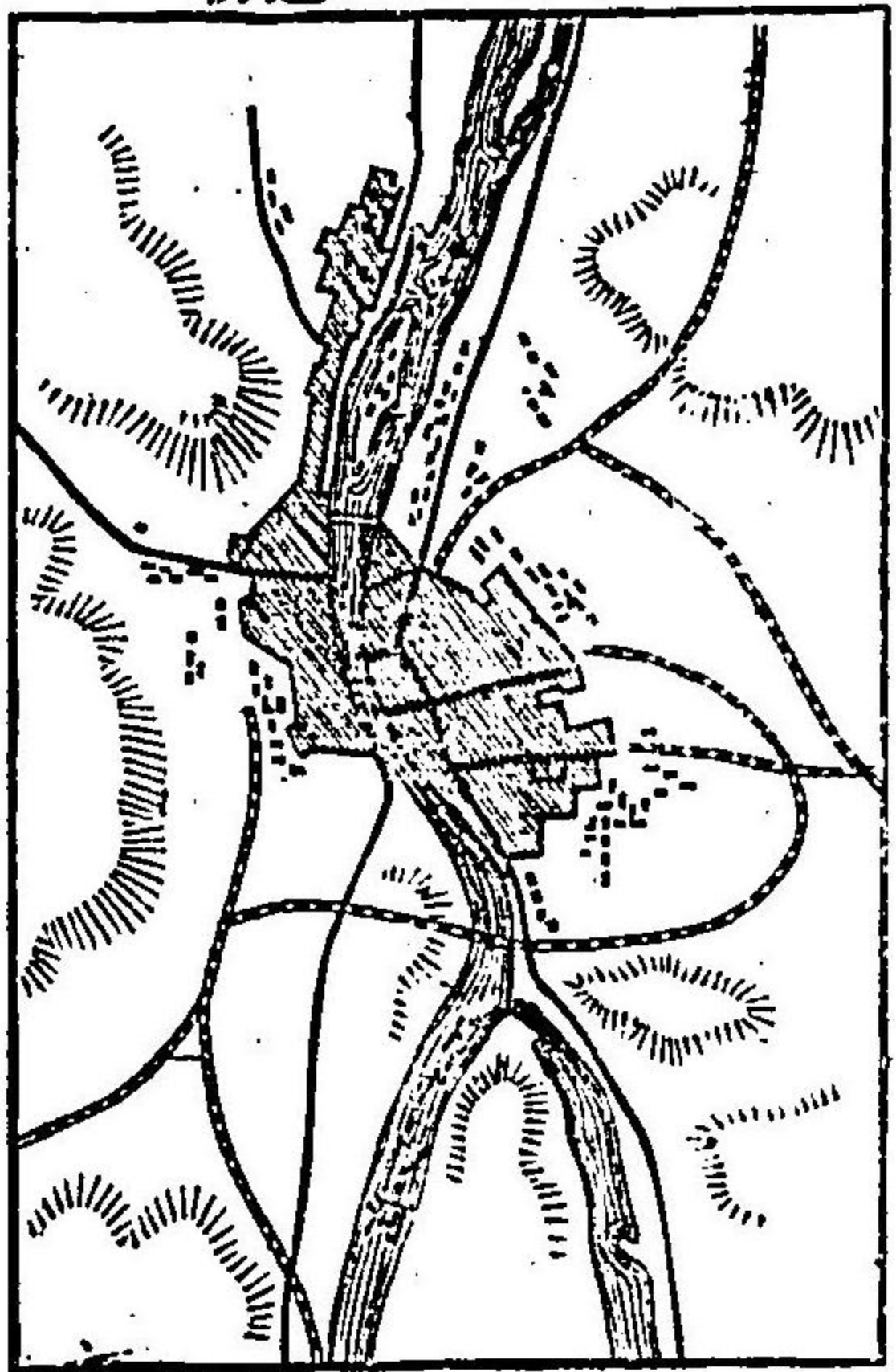
要の大都會にして、人口百

四十餘萬、商工の業盛なり

ブダペスト *Buda-pest* は、匈牙利の首府にして、ドナウ河に跨り、

人口五十萬、商業の繁盛なるを以て著はる、プラーク *Prague*

傍近トスベダブ



プラーク

ブダペスト

ウィーン

は北西部商業の中心にして、工業も盛なり、トリエストは、アドリア海頭に位し、此國の開港場なり。
Triest

ボスニア及びヘルゼゴビナの二地方は、南東にありて、森林牧場に富む西曆千八百七十八年以來、名義のみ土耳其に屬し、實權は此國にあり。

第七章 瑞 西

位置 瑞西は、塊地利、匈牙利の西に隣れる小共和國にして、面積一萬五千方哩、南境にアルプ山脈を控へ、これより支脈國內に連亘し、歐洲第一の高地たり、故に氣候寒冷にして、山上には盛夏の候といへども、積雪常に絶ゆることをなし。

地勢 此國の水流は、西歐諸國の、河川の源流なるが故に、急流なれども水量多く、工業に利を與ふること頗る大なり、又レマン・コンスタンツ等、數多の湖水は、景色に富めると、山中には温泉夥多なるとにより、近隣諸國より杖を曳くもの多く、歐洲の公園と稱せらる。

住民 國人の大部は、ニュートン種に屬す、人口三百三十萬ありて、我が東京市の倍數に過ぎず、性質勇敢にして、愛國心あり、勤

政治

勉にして忍耐力に
富み、教育盛にして、
六個の大學あり、宗
教は舊教・新教並び
行はる。

政體は、聯邦民主政
にして、大統領は行
政部の長たり。

耕地少きにより、農産は國內の需用
を充す能はずして、外國の輸入を仰
ぐ、牧畜は主要の生業にして、牛・羊の
飼養、乾酪の製造少からず、工業最も

中山アルア



湖畔ノマレ



産物

交通

ベルン
ジュネーブ

盛にして、時計・絹布・綿布・寶石細工の産多く、輸出品の重要な
ものなり、我國に輸入する精巧の懐中時計は、多くは此國
よりす。

山脈四周すれども、鐵道の設けありて、内外の交通自在なり、
特に伊太利との間には、サンゴタルドの大隧道ありて、長さ
九哩餘あり。

Saint Gothard

ベルン は、此國の首府にして、國會議場の設けあり、ジュネ
ーブは、レマン湖畔にある都會にして、時計の製造を以て世
界に名高し、この府に萬國赤十字同盟の中央部を設く。

Bern

Geneve

第八章 佛蘭西

位置

佛蘭西 は、瑞西の西方にありて、面積二十萬四千方哩、我國

地勢

より少しく大なり、國の中央より西北は、一帯の大平原をな
し、海岸は、ブルターニウ半島附近を除く外は、低平なる沙濱

山脈

にして、良港に乏しく、東南部は概ね山地なり、其東方、伊太利
瑞西の境に、アルプ山脈ありて、一般に高峻なり、就中 モンブ
Mont Blanc

ラン峰は、歐洲第一の高山にして、我が新高山と伯仲す、ここ

に觀象臺の設けあり、支脈南に走りて地中海に盡く、其南方
のユルシカ島は、ナポレオンの生地として名あり、アルプ山

脈より北方に赴くに從ひ、山勢次第に低卑となり、天然の境
界を缺けるが故に、獨逸との境には、數多の城壁を築けり。

河流

河流の有益なるもの四あり、東南にあるを ローヌ Rhone 河といひ、

氣候

瑞西より來り、地中海に入る、西流するものを セイヌ Loire ロアール
ル・ガロンヌの三河とす、各運河ありて、交通の便あるのみな
らず、灌漑の利も亦多く、良港、名都は概ね其沿岸にあり、大西
洋と地中海とを連ぬる運河の如きは、最も便利を極む。

氣候は、歐洲中、温和爽快と稱せられ、東部山地は、海岸に比し
て稍、寒冷を覺ゆ、雨量は適度にして、英國の烟霧常に空を蔽
ふが如くならず。

住民

住民は、概ね ラテン 種と、ケルト 種との混淆
にして、總人口三千九百萬あり、天性快活にして、義侠心に富
めり、高等教育盛にして、古より大學者の出でたること少か
らざるも、初等教育は、今尙盛ならず、宗教は、舊教獨り盛大に
して、住民の殆ど全部は、これを信ず。

政治

産物

貿易

交通

共和國にして、立憲政體なり、大統領は任期を七年とし、國會は上院下院より成る、陸軍は常備兵五十四萬を有し、海軍は八十萬噸の軍艦ありて世界第二に位す。

氣候温和にして、土地豊沃なるが故に、國人の大部は農業に従事し、北部・西部の小麥、南東部の葡萄、橄欖は、此國主要の産物とす、鐵・石炭は多からざれども、近隣諸國より輸入し易きと、國人意匠に巧なるとを以て、工業頗る盛なり、東部の絹織物、北部の毛布・綿布、南部の葡萄酒等は、重要な輸出品なり、我國に輸出するは毛斯倫を主とし、我より生絲・羽二重・絹手巾等を輸入す。

道路・鐵道・河流等交通機關の完備せること、英吉利・獨逸等に劣ることなし。

パリ

ル、アーナル

街市里巴



パリー Paris は、首府にしてセイヌ河に跨り、繞らすに堅固なる城壁を以てす、人口二百六十餘萬、市街の端正、家屋の莊麗を以て世界第一の稱あり、本府は學術・技藝及び商工業の淵藪にして、又歐洲諸國流行の中心なり、府の南西ベルサイユ Versailles に、宏壯なる宮殿あり。

ル、アーブル港は、セイヌ河口 Havre, Le に臨める當國第二の開港場にして、米國及び英國との取

引盛なり、ブレストは、ブルターニュ半島の西部にある重要の軍港にして、^{Brest}ボルドーは、ガロンヌ河口にあり、葡萄酒輸出港として頗る著名なり。^{Bordeaux}

リヨン は、ローヌ河の上流にある佛蘭西第三の大都會にして、人口四十八萬、絹布製造の隆盛なること世界に冠たり。^{Lyon}

マルセイユ は、リオン灣に臨める南歐第一の要港にして、^{Marseille}

人口四十五萬、亞細亞・阿弗利加・歐羅巴交通の要點に當り、貿易頗る盛大なり、其東方に、此國第一の軍港ツールロン港あり。^{Toulon} 領地は、對岸なる阿弗利加洲のアルジェリアを最も重なるものとし、大沙漠を越えてコンゴ國に及ぶ、東洋に於ては、印度支那あり、土地廣く、産物に富み、支那本部と連絡す、^{Congo} 其他、マダガスカル、大洋洲中の諸島及びコルシカ等あり。^{Madagascar}

モナコ侯國は、佛蘭西の南東隅にありて、地中海に臨める
^{Monaco}
此國の保護國なり。

第九章 白耳義

位置

住民

政治

産物

白耳義 は佛蘭西の北に隣り、面積一萬一千方哩、地勢東南は高く、西北に進むに従ひ次第に低下し、海面より低き處あるが故に、堤防を築きて海水の浸入を防ぐ、シエルト河及びマース河は、共に佛蘭西より來り、國內を貫流して和蘭に入る、人口は六百餘萬を有し、面積に比して人口の多きこと、世界第一に位す、而して北部の人民は、フレミッシュ語を用ひ、南部の人民は佛蘭西語を用ふ、教育は漸次に進歩し、國民の多數は舊教を信ぜり。

立憲政體なれども、民權甚だ重くして王權軽く、恰も共和政治に似たり。

農業盛にして、其重なる農産を穀物とし、國內の需用を充す

交通

ブルツセル

ワテロロは十八年前
佛蘭西のナポ
レオン一世が
英吉利の普魯
西等の聯合軍
と激戦したる
處なり

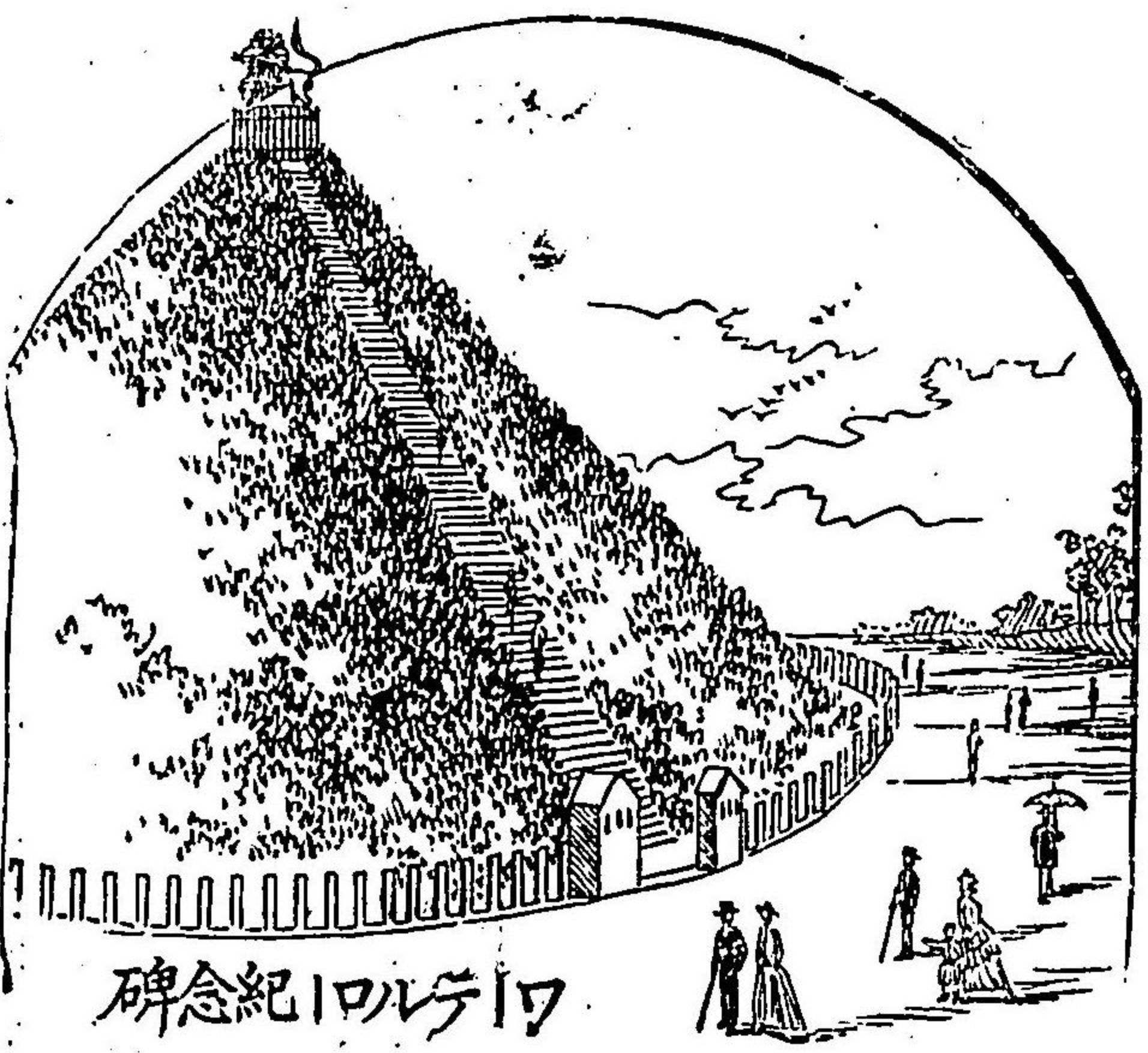
のみならず、輸出品の首位を占む、鐵・石炭は、此國第一の富源にして、従ひて工業頗る盛大なり、中にもレーズ・毛布・鐵器は主要なる輸出品にして、我國には鐵器・玻璃を輸出す。

交通の機關完備し、中にも鐵道は蛛網の如し。

ブルツセル は、首府にして
Bruxelles

て國の中央にあり、人口五十餘萬、鐵道四方に通ず、市街美麗なるが故に、小バリの名あり、此市の南凡そ九哩餘にワテロロの

Waterloo



ワテロロの紀念碑

アンヘルス

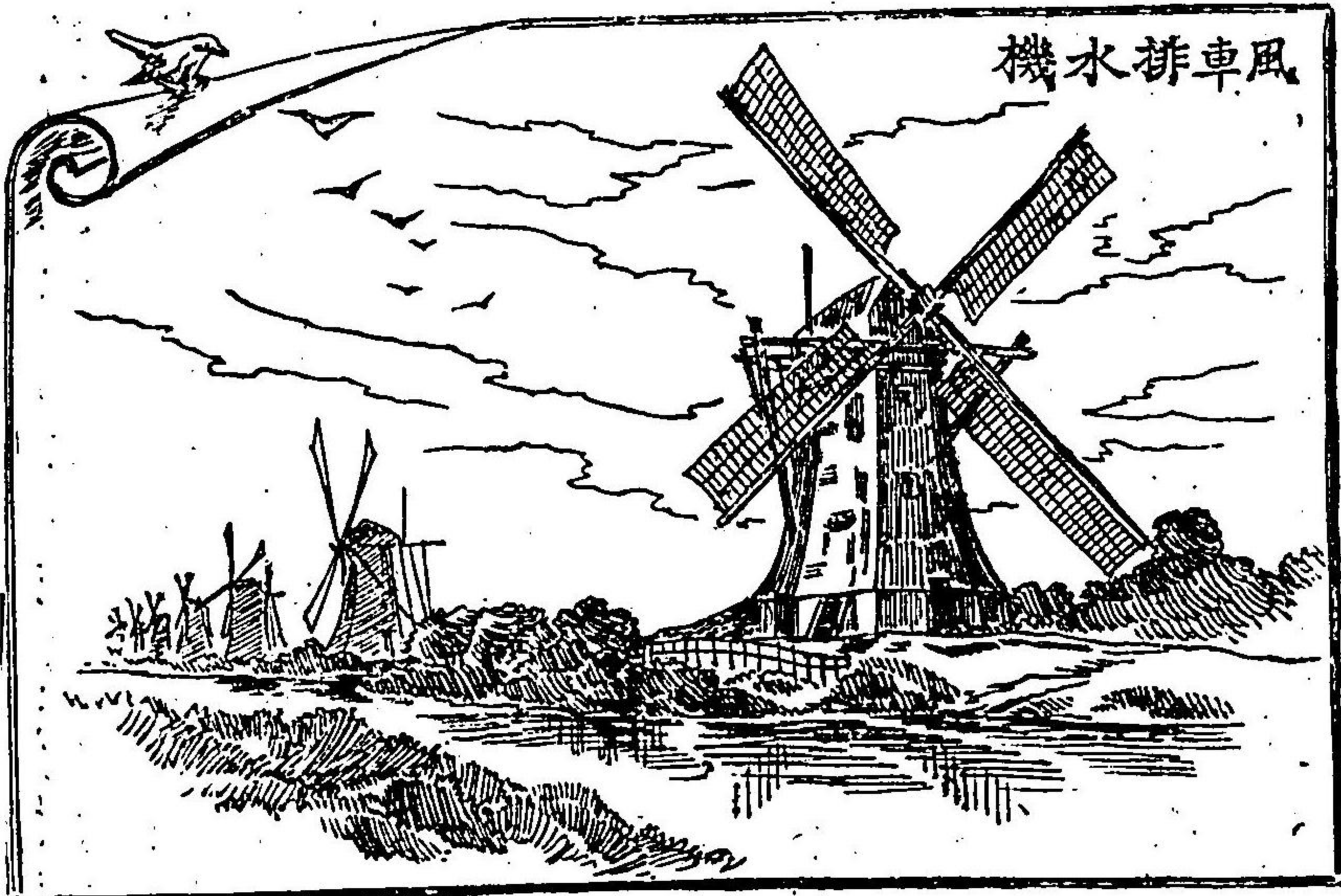
古戰場あり、アンヘルスは、シエルト河に臨み、水陸の交通甚だ便利なり、世界屈指の開港場にして、船舶常に群集し、貿易頗る盛なり、我が日本郵船會社の定期航路の終點とす。

ルクセンブルグは、白耳義と獨逸との間にある一小獨立國にして、歐洲諸強國との間に、戰時局外中立の約あり。

位置

地勢

風車排水機



第十章 和蘭

和蘭は、白耳義の北に隣れる小國にして、北海に臨む、獨逸北部平原に續き、一體に平地にして、Zuider zeeゼーの大灣深く内地に凹入す、地勢海水の面より低き部分少からざるが故に、堤防を築きて其浸入を防ぎ、風車と蒸氣力とを籍りて排水す。

河流の大なるものをライ

ン河とす、獨逸より來る、其他運河縱横に開け、水運の盛なること、他に比すべきものなし、故に和蘭は運河國の異稱あり、されど氣候は濕氣多く、冬は河水結氷し、又雲霧多く、晴天は一年の中僅に四五日に過ぎず。

住民は、天性忍耐、勤勉にして、愛國心に富み、特に商業に巧なるが故に、早くより世界各國と通商し、我國とは徳川時代の始より盛に貿易をなし、維新前に、西洋の學術技藝を我に輸入したるは、皆此國の力なり、今も内國及び外國との交通甚だ便利なるが故に、商業盛にして、輸出入の總額は、凡そ我國の四倍に達せり。

立憲政體にして、國會は上下二院より成り、海軍は稍盛なり。

ハーグ Hague は、此國の首府なれども、最も繁盛なるをアムステルダム Amsterdam

住民

交通

貿易

政治

ハーグ

アムステルダム

ルダムとす、ゾイデルゼーの灣頭なる、九十餘の小島上に立ち、橋梁の多きこと我が大阪に優る、人口五十餘萬、貿易盛にして、又金剛石細工を以て著名なり。
領地。領地の重要なるものは、亞細亞洲の馬來群島の大部にして、大洋洲、亞米利加洲にも亦少からず。

第十一章 英吉利

位置

英吉利は、歐洲大陸の西北部にある島國にして、恰も我國の亞細亞洲に在るが如し、大不列顛及び愛爾蘭の兩大島と、其他の群島より成り、其島彙を英吉利諸島と稱す、面積凡そ十二萬餘方哩ありて、本邦より少しく小なり、然れどもこれに屬領殖民地を合すれば、世界全陸地の五分一を占む。

沿岸

東と北とは波荒き北海にして、南東は英吉利海峡を隔てて、佛蘭西、白耳義、和蘭と相對し、其最も幅狭き處をドーバー海峡と稱し、直徑二十一哩に過ぎず、西は渺茫たる大西洋にして、遙に北亞米利加洲に面す、沿岸は屈曲出入に富み、良港灣頗る多し。

地勢

大不列顛の北部は、蘇格蘭と稱し、山脈縦横に連亘す、其以南

河川

の東南部は、これを英蘭と名け、中央に低きペニン山脈ありて、南北に走り、西方は狹隘なる平原なれども、東側は一面の平野にして、海岸には海面に等しき處あり、西の小部はウェールズといひ、高地なり、愛爾蘭の中央は、廣き平原にして、牧場多く、周圍は高地なり。

河川は皆細流なれども、降雨多きが故に水量に富み、且つ河口は、何れも三角江をなして、良港灣を有す、其著名なるものを、テムズ河、セバーン河及びシアンノン河等とす。運河の數も亦甚だ多く、中にもカレドニア運河は、蘇格蘭の北部を切斷せり。

氣候

此國は、南端といへども、其緯度は我が千島の北部に同じ、されど、墨西哥灣流の影響を受くると、主として西南風を蒙る

住民

とにより、氣候概ね温和なり。

此國の人口は、四千餘萬ありて、チエートン人種其大部を占むれども、ケルト種亦少からず、北部と西部とは住民少く、東部最も多し、故に外國に移住するもの年年少からず、性質着實にして能く業を守り、佛蘭西人の如く輕浮ならず、支那人の如く因循ならず、古より海を以て國を立てたるが故に、最も海事を重んず、教育は人民の自由に委するが故に、學事は盛ならずしが、近來大に面目を改めたり、宗教は、國內の各部に於て其事情を異にし、英蘭・ウェールス・蘇格蘭に於ては、新教を信ずるもの多く、愛爾蘭にては、舊教の信徒最も多し。此國は、大不列顛及び愛爾蘭の合衆王國と稱し、これに諸殖民地を加へて、英吉利帝國といふ、世界中最も古き立憲政體

政治

の國にして、議會は上下二院より成る、我國とは條約締結以來日に和親し、特に明治三十五年より、東洋に關する協約を結ぶに至れり。

軍備

陸軍は、其制略、我國と同じく、海軍は、百七十六萬餘噸の軍艦を有し、一萬噸以上の軍艦のみにて、既に四十餘隻あり、加ふるに兵士は、熟練せるが故に、世界第一の海軍國と稱せらる。

東洋艦隊のみにて七萬五千噸あり

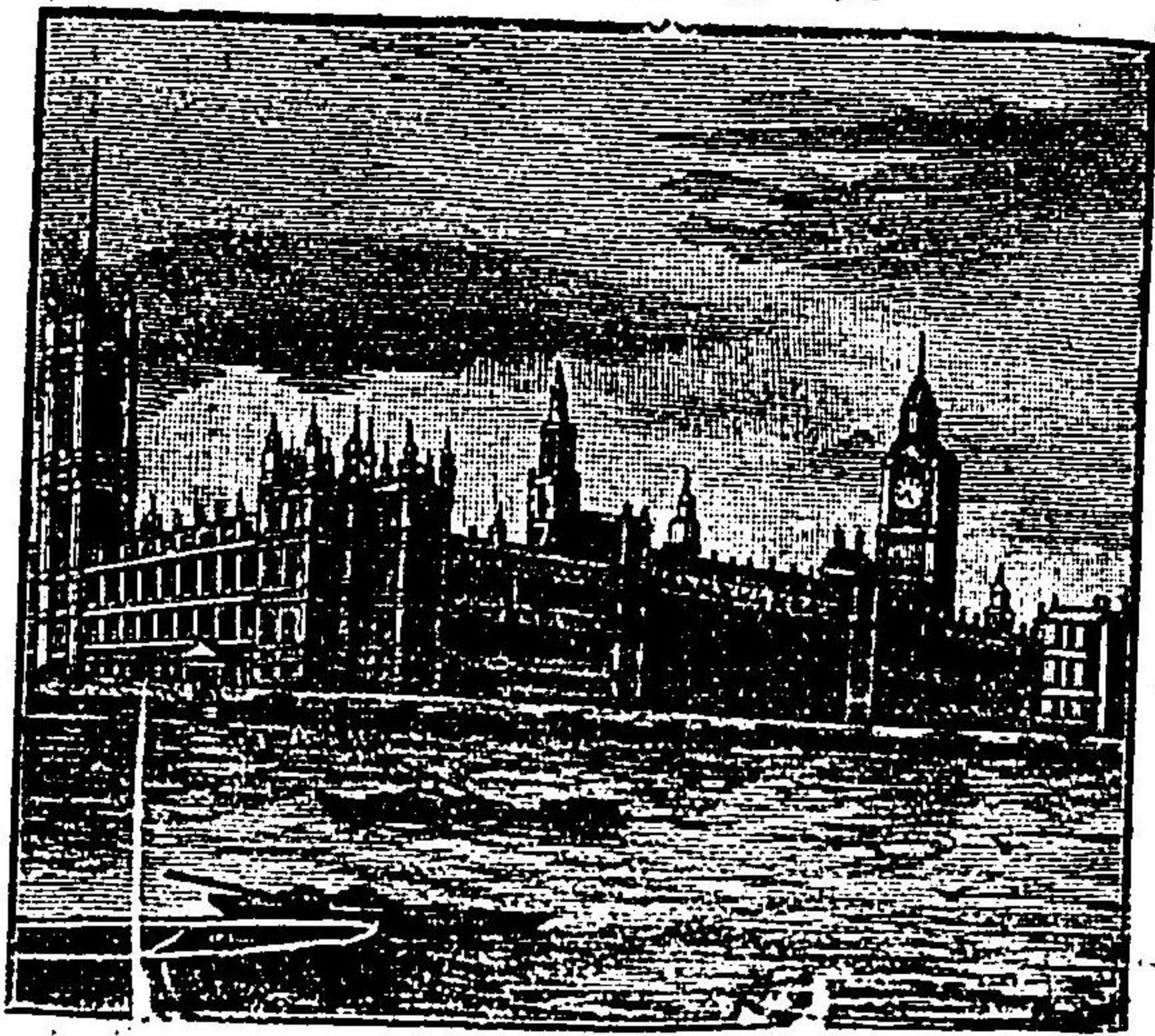
産物

此の國は、鑛産に富み、石炭は世界總産額の半を出し、鐵は歐洲總産額の半を産す、且つ二産地の接近せるがために、商工業の盛なること他に比類なし、蓋し工業に必要な石炭・鐵に富めるが上に、世界の中心に位し、良港及び領地の多きによるべし、主要の工産を綿布・鐵器とし、毛布・麻布等これに次

貿易

内外の交通機關完く備はり、内はロンドン・リバプールを中
心とし、道路・鐵道・運河等諸方に通じ、恰も蛛網の如く、外は數

國會議事堂



千の商船を以て世界を航行し、凡そ國として取引せざる處なく、前記の物品を輸出して、重に穀物・棉花・羊毛等を輸入す、我國との貿易も盛にして、本邦に綿布・毛布・鐵類・諸機械等を輸出し、本邦より絹布・米・銅等を輸入す。
ロンドン は、此國の首府に

してテムズ河口に跨れる世界第一の大都會なり、人口四百五十餘萬、郭外を合すれば、實に六百五十八萬に餘る、王宮を始め諸官衙・博物館・寺院等、人目を驚かすもの少からず、水陸の交通至便にして、大船巨舶常に輻輳し、鐵道は八方より集まり、世界貿易の中心にして、工業も亦頗る隆盛なり、府の東南隅にあるグリーンニッチは、天文臺の所在地にして、本初子午線の通過する處なり。

リバプール

マンチエスタ

リーズ

リバプール は、英蘭の西岸に位し、人口六十餘萬あり、ロンドンに次ゆる大貿易港にして、特に棉花を夥しく輸入し、綿布を輸出すること頗る多し、其東のマンチエスタは、世界第一の綿布製造地にして、人口五十餘萬、リーズは、毛布の織出所として、其名高く、バーミンガムは、英蘭の中央にありて

Birmingham

Manchester

Leeds

人口五十萬、鐵器の製造甚だ盛なり、其他、北部のニウーカッスルは、産炭地の中心に位し、造船業盛に、南部のポーツマスは、英國第一の軍港所在地なり。

Newcastle
Portsmouth

エデンバラは、蘇格蘭の首都にして、風光明媚、文學旺盛なり、グラスゴウは、西岸にありて人口八十萬、工業頗る盛にして、特に綿布及び造船業を以て著名なり。

Edinburgh
Glasgow

愛爾蘭の首都ダブリンは、東岸にありて、風景に富む。

Dublin

領地。甚だ廣くして、世界中に散在し、其面積一千百餘萬方哩、人口三億五千萬を有するにより、面積人口共に全世界の五分一を占む、其主要なる領地を、亞細亞洲の印度、大洋洲の濠太利亞、北亞米利加洲の加奈陀、阿弗利加洲の南、東大部分等とす。

位置

第十二章 西班牙

西班牙は、歐洲の西南部にある、イベリア半島の大部を占め、東は地中海に臨み、西の一部は大西洋に一部は葡萄牙に接す、南端のジブラルタル海峡は、地中海の咽喉に當り、頗る要害の地なれども、今は英吉利の領地となれり。

Gibraltar

山脈

河流

北方なる佛蘭西との境に急峻なるピレネー山脈あり、西方にカンタブリア山脈あり、國中概ね高原にして、西方に傾けるが故に、河川は



傍近峽海ルタルラゴマ

住民

概ね西流すれども、皆急流にして舟運の便あるものなく、東方なるエプロ河の流域のみ稍平地なり。

住民は、^{Ebro} 畧佛蘭西人に似たるも、頗る混淆し、性質は順良なり、宗教は舊教を國教とし、他宗派の自由を禁ぜり。

政治

政體は立憲王政にして、國會は上下兩院より成る、陸軍は常備兵十二萬ありて、海軍はもと強銳なりしが、西曆千八百九十八年、北米合衆國と戦ひ敗れ、多くの軍艦を失ひたるのみならず、緊要の領地をも失ひたり。

産物

降雨少きと、山林を濫伐したるとのため、内地は概ね地味粗惡にして、耕作地は海岸地方に限れども、國人は農業に従事し、穀物・果物類・葡萄を主産とし、^{Cashmere} 柎木・綿羊・水銀・銅等これに次ぐ。

マドリッド

マドリッド ^{Madrid} は此國の首府にして、中央の高原にあり、^{Barcelona} バルセロナは東岸にある此國第一の開港場にして、工業も亦盛なり、^{Cadiz} シブラルタル海峡の西方に、カデス港あり、^{Seville} コロンブス

亞米利加發見船の出帆したる處なり。

^{Andorra} アンドラは、ピレネー山中にある一小共和國にして、西班牙・佛蘭西兩國の保護の下にあり。

第十三章 葡萄牙

位置 葡萄牙は、西班牙の西にありて、南と西とは大西洋に臨む、
 河流 東方より來れる山脈は、縦横に連亘し、平地は海岸及び河畔
 にあるのみ、ドイロ・タホの二大河ありて、國內を貫流し、交通
 灌溉の利に富む。
Douro Tago Tejo

住民は概ね西班牙に類し、政體は立憲王政なり、此國は十五
 世紀の終より、世界を航行し、廣大なる殖民地を開きしが、今
 は大に衰へたり、我國には、足利氏の末、豊後に來れり、これ歐
 人の我國と交通せし始なり、氣候佳良にして、國人の生業は
 農を主とし、葡萄、穀物、果物の産あり、海産物も亦少からず、
 里斯ボン は、首府なり、タホ河口に位する良港にして、貿易

盛なり、オポルトは其北方にありて、葡萄酒の輸出甚だ多し、
Lisbon Oporto

里斯ボン

産物

政治

住民

河流

位置

第十四章 伊太利

位置 伊太利は、地中海三大半島の中央に位せる長靴形の半島
 と、附近の島嶼とより成り、北境はアルプ山脈、半圓形に連亘
 し、交通甚だ不便なりしが、現今は數條の鐵道を敷設し、大隧
 道を穿ちて交通自由なり、アルプ山脈より南出せるアペニ
 ン山脈は、半島を縦貫して、南端のシナリア島に達す、其西北
 にサルゲニア島あり。
Sardinia Sicilia Apenninus

此國は、地中海中、火山地方の中心に當り、頗る活火山に富む、
 中にも半島南部のベスビオ山及びシナリア島のエトナ山、
 リパリ諸島等最も名を知らる。
Vesuvius Lipari

北部にロンバルディア平原あり、ポー河及び運河のこれを灌
 漑すると、雨量の十分なるにより、田圃牧場頗る多く、伊太

河流

山脈

地勢

位置

氣候

利の寶庫と稱せらる、半島の西岸にあるナベル河は、大河にあらざれども、嘗て羅馬大帝國の中心たりし羅馬府の建設せられたる地方を、涵養せるが故に著名なり。

住民

北部は氣候不良にして、寒暑の差劇しく、濕氣多くして熱病流行すれども、半島部は温暖にして、天氣常に晴朗なり。

政治

住民は三千二百餘萬ありて、多數はラテン人種なり、國民一般に美術心に富み、繪畫、彫刻、建築等に妙を得たり、初等教育は未だ完全ならざれども、高等教育は進歩せり、此國は羅馬教法王廳の所在地なれば、國民多くは舊教に屬せり。

政體は立憲王政にして、議會は上下二院より成る、陸軍は二十六萬の常備兵ありて、海軍は世界第六位を占め、三十四萬噸の軍艦あり。

産物

氣候温和なること歐洲第一に位し、ロンバルディア平原及び海岸の地は、土地肥え農業盛にして、玉蜀黍、小麥、米等を多く産す、又生絲、葡萄酒、橄欖油、大理石、硫黃の産も多く、輸出品の主要なるものにして、絹布の製造又盛なり。

交通

交通機關中、完全なるを鐵道及び海運とす、鐵道は國內縦横に連亘せるのみならず、六條の鐵道は、アルプ山脈を貫き、近隣諸國との交通容易なり。

羅馬

羅馬は此國の首府にして、ナベル河畔にあり、法王の宮殿及びセントポールの大寺等、名勝舊跡頗る多し、人口五十萬あり。

ジェノバ

ジェノバは、ジェノバ灣頭にある地中海屈指の要港にして、此の國輸出入の大部は、此地に行はる。



心残りしも今は盛ならず、其他ミラノ・トリノ・パレルモ等、皆人口二十萬以上の都會なり。

サンマリノは、半島中部の山腹にある一小共和國なり。

Milan Torino Palermo

ナポリ は、ナポリ湾に臨める良港に

Napoli

して、人口五十三萬、風景頗る佳なり、其東方にベスビオ火山あり、西曆七十九年に噴出して、近傍の都邑を埋没せり。ベネチアは、アドリア海頭なる七十餘の島上に立ち、中古時代には、世界の中心

Venezia

位置

區劃

地勢

産物

第十五章

バルカン諸國

バルカン諸國 は、埃・露二國の南に突出したる半島を占め、東西南の三面は、黒海と地中海との水に洗はる、域内を分ちてロマーニア・セルビア・モンテネグロ・土耳其及び希臘の五國となす。

第一節

ロマーニア

Roumania

ロマーニア は、半島の最北にある王國にして、東は黒海に臨み、北西部は山地にして、多く岩鹽を産す、ドナウ河は、南境及び東部を流れ、歐洲列國共通の水路たり、此流域は地味肥沃にして、農業、牧畜盛に行はれ、小麥、及び牛・馬の産甚だ多し、首府ブカレストは、南部の平原にあり。

第二節

セルビア

Serbia

Bukharest

地勢

セルビア 王國は、ロマーニアの西方にあり、内地は、山岳縦横に連亘して森林多し、主なる生業は農にして、牧畜も亦盛に行はる、首府をベルグラドといひ、ドナウ河に臨み、匈牙利との貿易盛なり。
Belgrade

第三節 モンテネグロ

モンテネグロ Montenegro は、土耳其の西方にある小侯國にして、土地高く、大森林、國の全面を掩ふ、此國の海岸には、何國の軍艦も碇泊することを禁ぜり。

第四節 土耳其

土耳其 は、バルカン半島の中部にありて、東と西とは黒海及びアドリア海に面す、バルカン山脈東西に走りて脊骨をなし、これより支脈國中に連亘し、海岸及び河岸の外は概ね

位置

地勢

住民

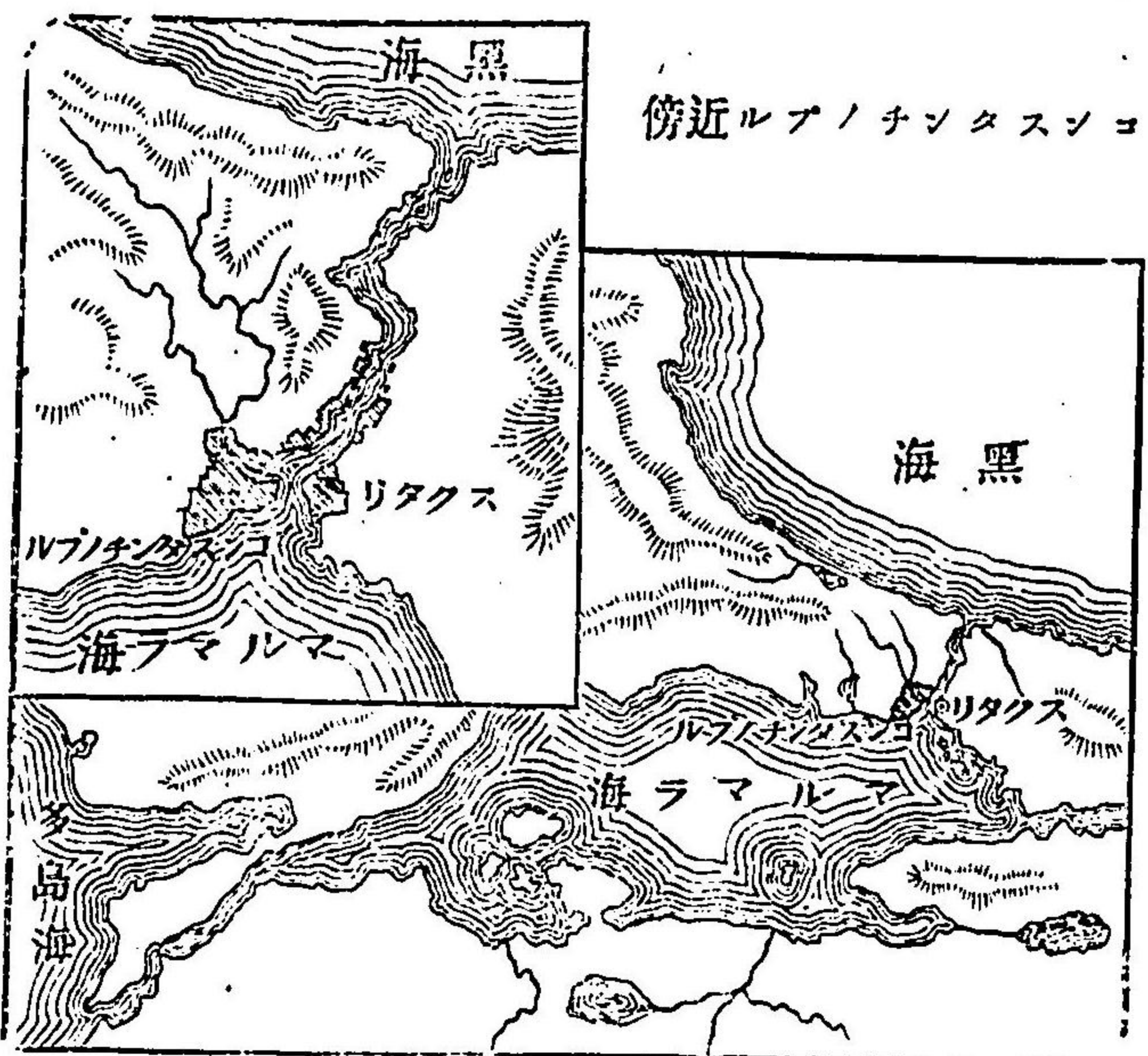
山地なり、屬島の大なるものをクレテ島とす。
Krete
住民の多數は蒙古種にして、希臘人・スラブ人これに次ぐ、もと、亞細亞より入りて建てたる國なるが故に、風俗習慣等、他の歐洲諸國民とは大に異れり、宗教は回教専ら行はる。政體は君主專制にして、皇帝をサルタンと稱し、回教の教典コーランによりて政を行ふ。

産物

沿海の平地は氣候温和にして、地味肥沃なるが故に、穀物・果物等を産し、牛・羊の牧畜も行はる、貿易も亦盛にして、羊毛・乾果等の輸出少からず。

コンスタンチノプル

コンスタンチノプル Constantinople は、此國の首府にして、人口百十萬餘、ボスボロス海峡に臨み、黒海の口を扼し、商業上及び軍事上、重要な位置を占むるが故に、對岸のスクタリと共に堅固な
Bosphorus
Scutari



洲の埃及・トリポリ等も土耳其の屬領とす。

第五節 希臘

る砲臺あり、サロニキは首府に次ゆる開港場にして、サロニキ灣内にあり、首府の西方にあるアドリアノプルは内地貿易盛なり。
領地。ブルガリア及び東ルメリアは、バルカン山脈の南北にありて、共に土耳其に朝貢す、其他、亞細亞洲の亞細亞土耳其、阿弗利加

位置

地勢

住民

政治

アテネ

希臘は北の一部のみ土耳其に接し、他は皆海に臨む、海岸の出入頻多にして、島嶼も頗る多く、東方は多島海の名あり、國內は山脈連亘し、處々に小區域の平地あり、國の中央にコリント・エギナの二灣、東西より凹入してコリントの地峽をなし、これより南をモレア半島とす。
住民は希臘人多數を占め、希臘教を奉ず、性質敏捷にして、商業に巧みなり、政體は立憲王政にして、國會は一院より成る、平地は氣候温和なるが故に、葡萄・無花果等の果物を産す。
アテネは首府にして中部にあり、古は文學技藝發達し、歐洲文化の中心と稱せられしも、今は大に衰へたり。

第四編 阿弗利加洲

第一章 總論

位置

境界

沿海

山脈

阿弗利加洲は東半球の南西にありて、東と西とは印度洋・大西洋の水に洗はれ、北は地中海を挟みて歐洲と相對し、東北の一部のみ、スエズ^{Suez}の地峽を以て亞細亞洲に連る。本洲はもと暗黒大陸なりしが、近時リベングストーン・スタンリー等探險の結果、開化の緒を開くを得たり。

本洲の面積は、歐洲に三倍すれども、海岸は單一にして大なる出入なく、唯地中海のシドラ・ガベスの二灣及び亞刺比亞との間の紅海・アデン灣のみ稍著名なり、屬島もマダガスカル島の外、大なるものなし。

山脈は四周の海岸にありて、内外交通の障壁をなす、其東部

にはアビシニアの高地あり、これより南方に連れる高地中にあるキリマネア^{Kilima Njaro}山は、海拔二萬尺に近く、本洲第一の高峰とす、其の他、北西部にアトラス^{Atlas}山脈ありて、地中海岸に並行す。

内部の南は地勢一般に高く、中はカラハリ^{Kalahari}沙漠あり、これより北に赴くに従ひ次第に低く、サハラ^{Sahara}沙漠となる。此大沙漠は東西四千哩、南北一千五百哩、一般に砂礫の高原をなし、岩石の丘陵起伏して、徃徃山脈をなす、又所々に泉地ありて、植物生育す。

本洲は大河に乏しからざれども、山勢によりて下流は概ね急湍瀑布をなし、交通の利を與ふるもの少し、ニール河^{Nile}は東部のビクトリア湖^{Victoria Nyanza}に發源し、地中海に入る、上流は毎年六月

地勢

河湖

氣候

より九月まで豪雨あるが故に、下流地方は洪水氾濫して地味頗る肥沃なり、其の他ニシエル・コンゴ・オレンジ等の諸大河は大西洋に入り、ザンベジ河は印度洋に注ぐ、何れも内地開拓上必要なる大河なり、湖沼は、東方に多くして、中にはピクトリア・タンガンイカ・ニヤッサの三湖を以て最も大なりとす。

氣候は甚だ炎熱なり、これ土地の大部分は熱帯に位すると、雨量少きとによる、殊にサハラ沙漠は酷熱にして、晝間は四十度以上に昇ること少からず、海岸の地も南北兩端の外は、炎熱甚しく熱病流行す。

本洲は頗る動植物に富む、植物には棉花・藍・椰子・珈琲・護謨及び各種の香料等多く、動物には象・犀・斑馬・水牛・羊・麒麟・河馬・コ

天産

住民

リヲ等あり、其の他獅子・豹の如き猛獸・鸚鵡・駝鳥の如き禽鳥等枚擧に遑あらず、鑛物には、南部の金を最とし、金剛石は産額世界に冠たり。

人口は凡そ一億八千萬ありて、黑人種多數を占め、白人種これに次ぐ、黒人は重に内部に部落をなし、白人は亞刺比亞人及び葡萄牙人の子孫最も勢力ありて、大抵周圍の海岸地方に住居す。

阿弗利加洲は政治上英吉利・佛蘭西・土耳其・獨逸・葡萄牙・西班牙等の領地及びマロッコ・アビシニアの二王國、リベリア共和國并に、獨立の諸地方に分るれども、今便宜上、北部・中部・南部及び島嶼の四部に分ちて説かんとす。

區劃

位置

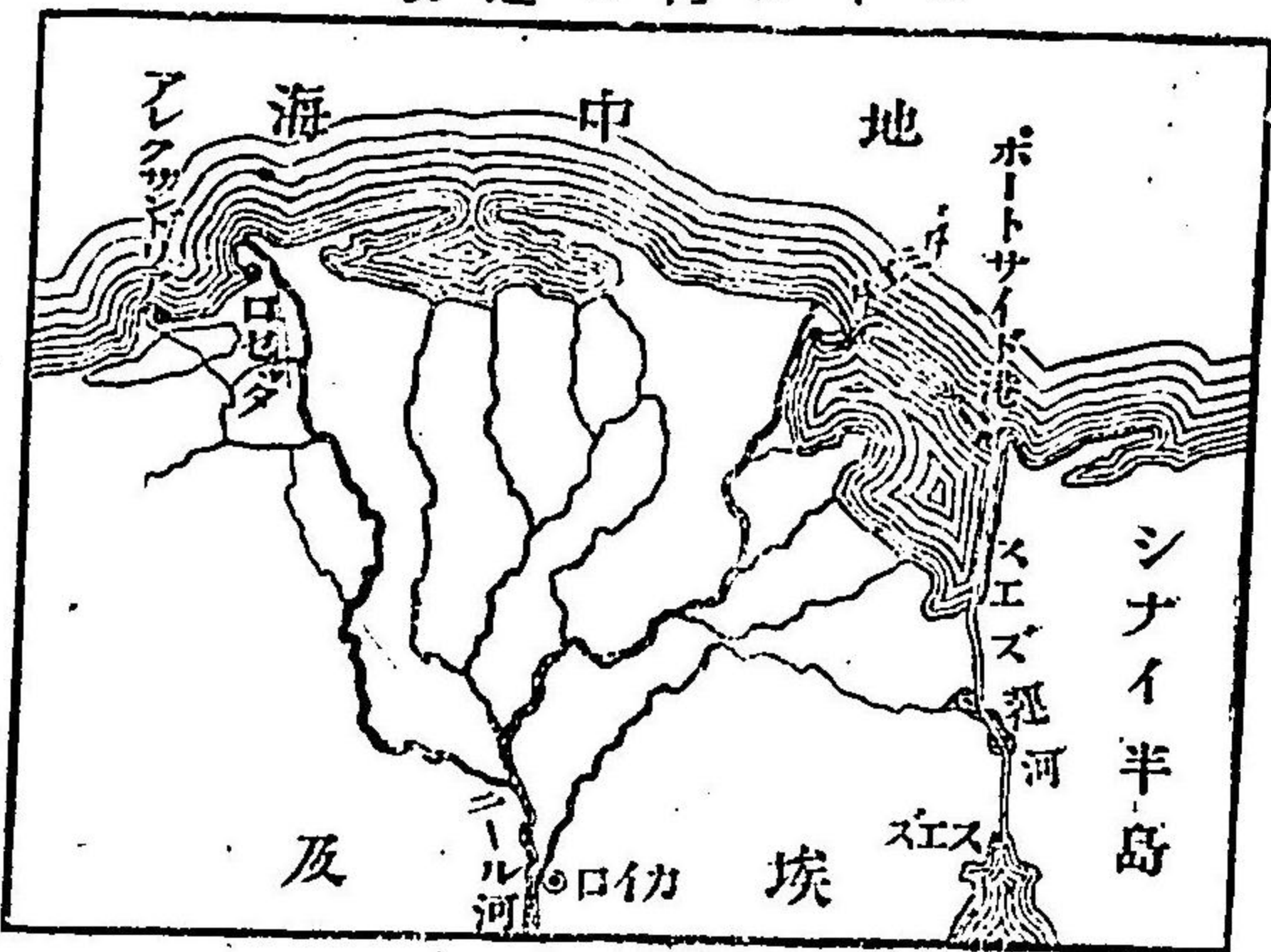
河流

第二章 北部阿弗利加

第一節 埃及

埃及は本洲の北東隅にありて、北は地中海に臨む、面積は本邦に二倍すれども、空氣乾燥、降雨少きが故に、域内は概ね沙漠にして、世界屈指の大河たるニール河、これを貫流す、此の河は上流地方に定期の大雨あるにより、一定の洪水ありて、流域は地味頗る肥え、地球上最も早く開化せる國の一なり、スエズ運河は地

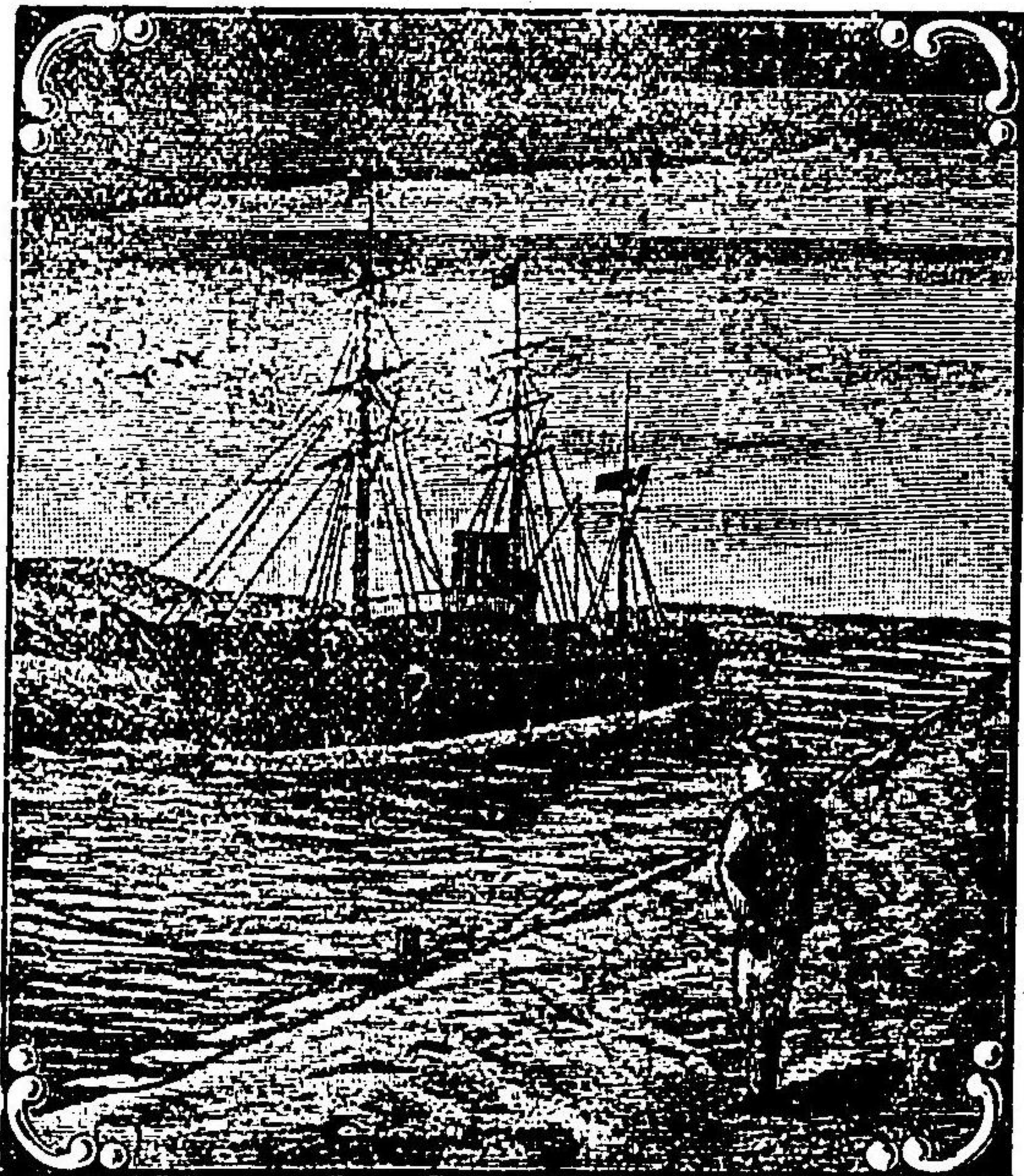
ニール河河口附近



住民

政治

スエズ運河



中海と紅海とを連ね、長さ八十七哩、佛人レセツプス氏の設計にして、西曆千八百六十九年に竣功せり、大船・巨舶も容易に通航することを得、住民の多數は、土耳其人・亞刺比亞人等にして、多くはニール河谷に住す、一般に回教を奉じ、教育は尙進歩せず、生業は農を主とし、穀物・棉花・砂糖の産少からず。

此國は世界の舊國にして、上古は大に開明なりしが、其の後

幾多の變遷ありて、現今は名義上、土耳其の屬領なれども、財政其の他は英國の監督の下にあり。

カイロ

カイロ Cairo は、首府にしてニール河の下流沃野に立ち、人口五十餘萬、本洲第一の大都會なり、府の西方にあるギゼーの近

傍に、有名なる金字塔數基あり、アレクサンドリアは地中海

ポードサイド

の要港にして、貿易盛なり、ポードサイドは、スエズ運河の北

口に位し、運河を航行する船舶の寄泊する所なり。

第二節 バルバリー地方

Barbary

位置

バルバリー地方 は、埃及の西にありて、地中海沿岸一帯の

地勢

地をいふ、アトラス山脈東西に走り、東より西に進むに従ひ、次第に高度を加へ、西部に於ては、我が富士山と伯仲のものありて、常に白雪を戴く、此の山脈以南は炎熱なれども、北部

區劃

は温和にして、農業及び牧畜の業盛なり、別ちてトリポリ・ナ

ウニシア・アルジェリア・マロッコの四國とす。

Tunisia

Algeria

一、トリポリ は、土耳其の屬領にして、埃及の西隣にあり、域

内概ね沙漠にして、僅に海岸地方に沃地あるのみ、首府トリ

ポリは、内地に出入する要路に當れるが故に、稍繁盛なり。

二、チュニシア は、トリポリの西北にある小國にして、佛蘭

西の保護を受く、首府をナウニスといひ、北部阿弗利加の名

Tunis

邑とす、近傍に、史上に名高きカルタゴの舊址あり。

Carthago

三、アルジェリア は、佛蘭西領中、最も主要の地にして、アト

ラス山脈以北は、地味肥沃にして、農産多く、中部よりは、紙の

原料たるアルファ草を産し、山南よりは、果物を産す。

鐵道・郵便・電信等は、各都邑間を連絡し、北部阿弗利加中最も

開明に赴けり。

アルジェーは首府にして中央の海岸にあり、氣候佳良なるが故に、冬季避寒する歐人少からず。

四、マロッコは、本洲の西北隅にある獨立の王國にして、歐洲のイベリア半島と相對して、地中海の咽喉を占む。北部は温暖なれども、山南の地は炎熱甚し、低地は、一般に地味豊沃なれども、國人は牧畜を以て主要の生業とす。首府はマロッコにして、フェズは此國第一の大都會なり。内地の象牙・羽毛等を輸出し、歐洲の製品を輸入す。

位置

地勢



第三章 中部阿弗

利加

第一節 サハラ

Sahara

サハラは世界第一の大沙漠にして、西は大西洋岸より、東はニール河畔に達し、北は北部阿弗利加に連る。

一般に砂礫の高原なれども、中には岩石・粘土等より成れる山脈ありて、高さ七八千尺に及ぶものあり、空

氣乾燥にして氣候の變化著しく、日中は四十度以上に昇るも、夜間は氷點以下に降るを常とす。降雨稀なるも露多ければ、處々に草木の生ずる泉地ありて、住民多く、沙漠を旅行する隊商は、駱駝に乗り、泉地より泉地に移りて旋風の害を免かる。

第二節 スダン

スダンとは黒人國の義なり

スダン は、サハラ沙漠の南に隣れる廣大の地方にして、全土概ね高原なり、ニシエル河は、西方を環流してギネア灣に注ぎ、シアリ河は中央のナアーデ湖に入る、氣候炎熱、降雨多量なるが故に、大森林は鬱蒼とし、穀物・果物の産も亦少からず、其の他、沙金・象牙・駝鳥毛等の産あり。域内數多の部落に分れ、黒人は各地に割據すれども、東部は

天産

チンブクツ

英國の勢力範圍にありて、西部は佛國の勢力範圍に屬す。

チンブクツ は、ニシエル河

Timbuktu

畔にありて、北部阿弗利加に通ずる要衝に當り、貿易盛にして、沙漠の女王の名あり、クカは、ナアーデ湖の西岸にあり。

Kuka

第三節 西部海岸 地方

本域の大部 は、英・佛・葡・獨等の領地にして、此等の諸國は、次第に内地に向ひて驥足を延べんとせり、産物の主なるも



黒人人家

のは、象牙・砂金・椰子油・棉花・砂糖とす。

セネガンビア Senegambia は、セネガル河・ガンビア河の流域地方にして、大部は佛蘭西主権の下にあり、首府をセントルイスといふ、其南に英領及び葡領あり、シエラレオネ Sierra Leone は、英國の奴隷解放地にして、首府をフリータウンといふ。リベリアは、米國殖民會社が、黑人のため立てたる共和國にして、モンロウイア Monrovia は、其首府なり、其他、上ギネアの象牙海岸は佛領にして、黄金海岸は英國に屬し、穀物海岸は佛獨これを分領す、下ギネアのカメロン Cameron は獨逸の領地にして、其南に佛領コンゴ及び葡萄牙に屬するアンゴラ Angola あり。

第四節 コンゴ自由國

コンゴ自由國 は、スダンの南にありて、コンゴ河流域の全

位置

河流

部を占む、コンゴ河は、月山脈中のタンガンイカ湖に發源し、下流に急湍瀑布ありて、舟楫を通ぜざる處には鐵道を設け、其他數百哩間は、汽船の便ありて、内地を開拓すべき一大通路なり、此河の沿岸九ヶ處に貿易場ありて、其のボマ Boma は首府なり。

産物

此國は、英人スタンリーの探險に係り、獨逸のヘルリンに開かれたる萬國會議の結果、西曆千八百八十五年此の自由國を建て、萬國民をして自由に貿易せしむることとし、白耳義王これを支配す、氣候炎熱にして雨量多く、主要の産物は椰子油・護謨等にして、土民はマニオック・芭蕉實を常食とす。

第五節 東部海岸地方

エジプトスダン Egyptian Sudan は、埃及の南にあり、もと埃及の領地なり

しが西暦千八百八十三年の内亂以來獨立の姿となれり、ハ
ルツームは酋長の居城地にして、ニール本流と青ニールと
の會合點にあり、其下流にあるドンガラは貿易場なり。

Dongala

アビシニアは、エジプトスダンの東方にあり、全土山地に
して、數條の大河は北流してニール河に入る、此地方は、毎年
六月より九月までは雨季にして、降雨甚だ多し、ニール河に
一定の洪水あるはこれが爲めなり、首府をアヂスアベバと
いふ。

Adis Abeba

ソマリランドは、亞刺比亞と相對してアデン灣を抱く、土

Somaliand

地の大部は、伊太利及び英吉利に屬す、ソマリランドの西南
に、英・獨・葡三國の領地あり、英領は、北はアビシニアに接し、南
は獨逸領東部阿弗利加に連る、南境のビクトリア湖は、本洲

第一の大湖にして、ニール河の水源をなす、其東方にキリマ

ヌデアロ・ケニア等の高峰あり、ヂンシバル島に、同名の都邑

Kenia

Zanzibar

ありて東岸第一の貿易港と稱せらる。

獨逸領は、英領の南にありて西方に數多の湖水あり。

葡萄牙領は、獨逸領の南にありて、東はモサンビク海峡を隔

Mozambique

て、マダガスカル島に對し、ザンベジ河中央を横斷す、此河
は東部第一の大河なれども、處處に急湍、瀑布ありて、舟楫の
便なく、モサンビク島は北部にあり。

第四章 南部阿弗利加

第一節 英吉利領

南部阿弗利加ノ區劃

英吉利領。南阿弗利加を分ちて、ケープ殖民地 ナタル殖民地 オレンジリバー殖民地 トランスバール殖民地等とす。

一、ケープ殖民地 は、本洲の南端にある略三角形の地域にして、北はオレンジ河等を以て境界とす、雪山山脈、域内を縦貫して西南端の喜望峰となる、故に北方のオレンジ河畔の外は概ね高原なり、主なる生業は牧畜にして、羊毛の輸出頗る多量なり、金、金剛石、駝鳥毛も亦甚だ多し。

住民は、カフィール人と稱する黑人最も多く、英吉利人、和蘭人の子孫も亦少からず、もと和蘭の領地なりしが、現今は英國に屬し、阿弗利加洲に於ける英領中、最も肝要の地なるが故

に、艦隊を派遣して其警備に充て、總督をケープタウンに置く。

ケープタウン

ケープタウン は、首府にしてテーブル灣に望み、貿易盛にして、各國の船舶常に輻輳す、北方なるバール河畔のキンバ

Cape Town

Table

Vaal

リーは、金剛石産地の中心なるが故に市況繁盛なり。

Kimberley

二、ナタル殖民地 は、ケープ殖民地の東北にありて、綿羊及

び鐵、石炭の産あり、首府をピーターマリツブルグといふ。

Pietermaritzburg

三、オレンジリバー殖民地 は、ナタルの西にありて、オレンジ河と、其支流バール河との間にあり、地味肥沃にして農業

及び羊、牛、馬等の牧畜盛なり、金剛石、金の産も亦頗る多し、もとオレンジ自由國と稱し、ボアー人の建てし國なりしが、近年トランスバールと共に、英吉利と戦ひしために征服せら

れて、其殖民地となれり、首府をブルムフオンタインといふ。』
 四、トランスバール殖民地 は、バール河とリンポポ河との
 間にありて、地勢南部は高く、北部に赴くに従ひ次第に低し、
 世界第一の金産地にして、鐵・石炭の産も少からず、牧畜は羊
 を最とす。

此地は、もと南亞共和國といひ、五十年前よりオレンジ自由
 國と共に、ボア人の建てし獨立共和國をりしが、其後種々
 の變遷ありて、外交の事は英國に一任し、其他の自治權を握
 りしが、金坑發見以來、英人との間に權利の衝突を生じ、千八
 百九十九年より四年間の戰爭をなししが、終に再び英國の
 殖民地となれり、此國住民中、白人最も多く、教育は漸次進歩
 し、鐵道・電信等の交通機關も次第に備はらんとす、首府はプ

レトリアなれども、ヨハネスブルグは、金産地の中心なるが
 故に頗る繁盛なり。
 Pretoria Johannesburg

カラハリ沙漠は、トランスバールの西方に位し、其周邊には
 數多の部落ありて、英國の殖民地或は保護の下にあり。
 Kalahari

第二節 獨逸領南阿弗利加

獨逸領南阿弗利加 は、ケープ殖民地の北西にありて、ダマ
 ラランド及びナマクアラランドの二部に分れ、西方一帯大西
 洋に面す。
 Damaraland Namaqualand

第五章 島 嶼

第一節 印度洋諸島

マダガスカル島 は、モサンビク海峡を隔てて、葡萄牙領東部阿弗利加と相對す、世界屈指の大島にして、我國の全面積より大なり、全島山多く平地少し、雨量多く地味佳良なれども、健康に適せざる處あり、主要の生業を牧畜・農業とす、此島は佛領にして、首府をタナナリボといふ。
Tananarive
 モーリシアス島は英領にして、砂糖を産すること多し。

第二節 大西洋諸島

セントヘレナ Saint Helena は、英領の小島にして、ナポレオン一世の配流地なり、其北方にアセンション島あり、亦英國に屬す、
Ascension
 ヘルデ崎諸島は、セネガンビアの西方にありて、葡萄牙に屬
Verde

す、其北方にあるカナリア群島は、多くの火山島の總稱にして、
Canary
 西班牙に屬し、マデイラ及ビアソレスの二群島も共に火山島にして、葡萄牙の領地なり。
Madeira
Azores